

「第 9 回～第 12 回県民フォーラム意見報告書」の概要

「水源環境保全・再生かながわ県民会議」では、直接県民の皆様から幅広く意見を収集すること等を目的に「県民フォーラム」を開催してきました。このたび、平成 22 年度に開催した 4 回の県民フォーラムについて、参加者の意見等を取りまとめた報告書を作成しました。

県民フォーラム開催状況

(1) 第 9 回 県西地域

テ ー マ 酒匂川流域から見た水源環境保全・再生について
日 時 平成 22 年 7 月 29 日 (木) 18 : 30 ~ 20 : 50
場 所 小田原市生涯学習センターけやき 2 階ホール
参加人数 105 名 (参加者意見 40 件)

(2) 第 10 回 山梨県

テ ー マ 桂川の水が神奈川県民の飲み水であることをご存知ですか？
- 桂川・相模川流域の環境保全に向けて、
今、何が求められているかを考える -
日 時 平成 22 年 9 月 4 日 (土) 13 : 30 ~ 16 : 00
場 所 山梨県大月市民会館 3 階講堂
参加人数 142 名 (参加者意見 34 件)

(3) 第 11 回 川崎・横浜地域

テ ー マ 私たちの水はどこから来ているのか
日 時 平成 22 年 10 月 24 日 (日) 第 1 部 13 : 30 ~ 15 : 30
第 2 部 15 : 35 ~ 16 : 20
場 所 川崎市総合自治会館 ホール
参加人数 102 名 (参加者意見 19 件)

(4) 第 12 回 湘南・県央地域

テ ー マ 森林とシカの一体管理 (野生動物との共存)
日 時 平成 23 年 2 月 6 日 (日) 第 1 部 13 : 30 ~ 15 : 50
第 2 部 16 : 00 ~ 16 : 55
場 所 伊勢原市 FORUM 2 4 6 4 階大研修室
参加人数 122 名 (参加者意見 34 件)

意見の概要

(1) 森林の保全・再生事業に関すること

ア 自然林は整備する必要はないが、人工林は整備する必要がある。人工林の荒廃状況は県民にとってわかりにくいものであるが、下草植生の後退や土壌の乾燥などは問題である。水源環境保全税により、今後も森林整備事業を拡充してもらいたい。

イ 森林の再生を効果的に行うためには、行政としての取組、リーダーシップが重要である。

ウ かながわ森林塾について、「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」への位置づけと適切な目標設定を行ってもらいたい。

エ 有効的なシカ対策と捕獲したシカの活用方法について検討してもらいたい。

オ 生物多様性のある水源地づくりを行ってもらいたい。

カ 間伐材の有効活用について検討してもらいたい。

(2) 水源環境への負荷軽減事業に関すること

ア 身近な用水路などの浄化対策は定期的なメンテナンスを必要とする。学生のクラブ活動やボランティアなど、市民の力を借りた取組を検討してもらいたい。

イ ダム湖の水質改善策にあたり、上流域の下水道対策に加えて、ダム湖に流入・蓄積する自然流入有機物等の削減をはかるなど、現在取り組んでいるエアレーションシステム以外にも、さまざまな策を検討してもらいたい。

(3) 情報の提供・理解の促進に関すること

老若男女を問わず、もっと広く県民にPRしてもらいたい。

(4) 環境教育に関すること

学校教育課程の中に位置づいた環境学習を行ってもらいたい。

(5) 市民活動への支援に関すること

ア 若い世代が活動に参加するような取組を検討してもらいたい。

イ 市民事業支援補助金制度を継続してもらいたい。

ウ 市民やNPOが継続的・発展的に活動している状況を県民に知らせてもらいたい。

(6) 県外対策に関すること

ア 県境を越えて流域一体となって森林整備や環境保全活動等の問題を解決する仕組みを構築し、県外上流域の対策に取り組んでももらいたい。

イ 神奈川県の水源環境保全税を県外上流域対策に使う場合、神奈川県民を説得するだけの裏付けが必要である。

(7) その他

ア フォーラムに参加して本当に良かった。体験型の参加企画などがあるとよい。

イ 水を有効活用するための施策について検討してもらいたい。

ウ 今後も地道な啓蒙活動を続けて行くことが肝要である。

エ 県民がよく理解し、取組に参加することが一番大切であるため、県から働きかけをしてもらいたい。

平成23年 5月30日

神奈川県知事 黒岩 祐治 殿

水源環境保全・再生かながわ県民会議

座長 堀場 勇夫

平成22年度の県民フォーラム意見について（報告）

当県民会議では、平成22年度に水源環境保全・再生かながわ県民フォーラムを4つの地域（第9回：県西地域、第10回：山梨県、第11回：川崎・横浜地域、第12回：湘南・県央地域）で開催し、県民への水源環境保全・再生施策の周知とともに幅広い県民からの意見収集に努めてきました。

このたび、平成22年度における4地域の県民フォーラムの概要並びに収集した意見を別添のとおり取りまとめましたので報告します。

知事におかれましては、当報告書の県民意見を水源環境保全・再生施策に反映させることについてご検討いただくとともに、質問事項については県民会議を通じて回答してまいりますので、県としてのご回答をお願いします。

第9回～第12回
県民フォーラム意見
報告書
(案)
平成22年度

平成23年5月

水源環境保全・再生かながわ県民会議

平成22年度 県民フォーラム意見について

1 はじめに

「水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム」(以下「県民フォーラム」という。)は、水源環境保全・再生の取組について、県民の意見を幅広く収集するとともに、水源環境保全・再生に係る情報の提供・発信等を目的に「水源環境保全・再生かながわ県民会議」(以下「県民会議」という。)が開催するものである。

平成19年度から平成21年度にかけて県内8箇所において県民フォーラムを開催したところである。参加者からの意見を取りまとめ、平成19年度分、平成20年度分、総括的県民フォーラム分、及び平成21年度分の4回に分けて知事に対して報告を行い、県から報告に対する回答を受けている。

このたび平成22年度に開催した4回の県民フォーラムについて、参加者からの意見を取りまとめ、知事に報告するものである。

2 平成22年度県民フォーラムの結果概要

	テーマ	酒匂川流域から見た水源環境保全・再生について	
	日時	平成22年7月29日(木)18:30~20:50	
	会場	小田原市生涯学習センターけやき 2階ホール	
	企画責任者	片山幸男 高橋弘二 高橋二三代 増田清美	
	参加者数	105名	
	意見数	40件	
第九回	内容	水源環境保全・再生施策の事業説明 次期「かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画」に関する意見書について パネルディスカッション コーディネーター 埼玉大学大学院理工学研究科教授 パネリスト 小田原市長 酒匂川を伝える会代表 NPO法人しのくぼ専務理事	県職員 高橋 弘二委員 浅枝 隆氏 加藤 憲一氏 小山田大和氏 稲葉 定義氏

第十回	テーマ	桂川の水が神奈川県民の飲み水であることをご存知ですか？ - 桂川・相模川流域の環境保全に向けて、今、何か求められているかを考える -	
	日時	平成22年9月4日(土) 13:30～16:00	
	会場	山梨県大月市民会館 3階講堂	
	企画責任者	井上伸康 倉橋満知子 高橋幸一	
	参加者数	142名	
	意見数	34件	
	内容	山梨県の森林や生活排水への取組について 神奈川県の水源地環境保全・再生施策と 両県共同調査について 相模湖・津久井湖の現状報告について 山梨県事業関係者の活動報告について 山梨県北都留森林組合参事 パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 (県民会議委員) パネリスト 桂川・相模川流域協議会代表幹事 多摩川源流研究所所長 神奈川県環境科学センター専門研究員	山梨県職員 神奈川県職員 神奈川県職員 中田 無双 氏 木平 勇吉 氏 河西 悦子 氏 中村 文明 氏 田所 正晴 氏
第十一回	テーマ	私たちの水はどこから来ているのか	
	日時	平成22年10月24日(日) 第1部13:30～15:30 第1部15:35～16:20	
	会場	川崎市総合自治会館 ホール	
	企画責任者	井伊秀博 北村多津一 木下奈穂 久保重明	
	参加者数	102名	
	意見数	19件	
	内容	【第1部】 水源環境保全・再生施策の事業説明 パネルディスカッション コーディネーター 法政大学社会学部・同大学院 政策科学研究科教授 (県民会議委員) パネリスト コ・コア セントラル ジャパン株式会社 常務執行役員 広報・CSR推進部長 かながわ森林インストラクターの会理事長 日本ミクニヤ株式会社東京支店 環境防災部課長	県職員 田中 充 氏 島田 勝一 氏 島岡 功 氏 原田 智也 氏
	【第2部】 「第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画(骨子案)」の説明と意見交換	県職員	

第十二回	テーマ	森林とシカの一体管理（野生動物との共存）	
	日時	平成23年2月6日（日）第1部13:30～15:50 第2部16:00～16:55	
	会場	伊勢原市FORUM246 4階大研修室	
	企画責任者	岩淵聖 小林信雄 柳川三郎	
	参加者数	122名	
	意見数	34件	
	内容	<p style="text-align: center;">【第1部】</p> <p>水源環境保全・再生施策の事業説明 県職員 基調講演 丹沢自然保護協会理事長 中村 道也 氏 （県民会議委員）</p> <p>パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇吉 氏 （県民会議委員）</p> <p>パネリスト 伊勢原森林里山研究会理事長 山口 寿則 氏 伊勢原市森林組合代表理事専務 平田 光一 氏 丹沢自然保護協会理事長 中村 道也 氏 （県民会議委員）</p> <p style="text-align: center;">【第2部】</p> <p>「第2期かながわ水源環境保全・再生 実行5か年計画（素案）」の説明と意見交換 県職員</p>	

3 県民フォーラム意見

第9回～第12回県民フォーラムにおける個々の意見内容は資料（P5～13）のとおりである。

このフォーラムには、県担当部局職員も出席し、議論に参加していただいているものであるが、これらの意見の中で県民会議として受け止め、特に重要な事項を項目ごとに次のとおり整理したので、県施策への反映を検討していただきたい。

また、個別意見の中で、参加者から回答希望のある質問については、県民会議を通じて回答するので、県民会議へご回答くださるようお願いしたい。

なお、意見ごとの末尾にある「西1」等の番号は、資料記載の個別意見番号となっているので参照願いたい。

（西：県西地域、山：山梨県、川：川崎・横浜地域、湘：湘南・県央地域）

（1）森林の保全・再生事業に関すること

ア 自然林は整備する必要はないが、人工林は整備する必要がある。人工林の荒廃状況は県民にとってわかりにくいものであるが、下草植生の後退や土壌の乾燥などは問題である。水源環境保全税により、今後も森林整備事業を拡充してもらいたい。（西2・4）

イ 森林の再生を効果的に行うためには、行政としての取組、リーダーシップが重要である。（川1）

- ウ かながわ森林塾について、「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」への位置づけと適切な目標設定を行ってほしい。（西6）
- エ 有効的なシカ対策と捕獲したシカの活用方法について検討してほしい。
（川2、湘5・6・8・10・11・13）
- オ 生物多様性のある水源地づくりを行ってほしい。（湘8）
- カ 間伐材の有効活用について検討してほしい。（西9・10・33、川3）
- （2）水源環境への負荷軽減事業に関すること
- ア 身近な用水路などの浄化対策は定期的なメンテナンスを必要とする。学生のクラブ活動やボランティアなど、市民の力を借りた取組を検討してほしい。（西13）
- イ ダム湖の水質改善策にあたり、上流域の下水道対策に加えて、ダム湖に流入・蓄積する自然流入有機物等の削減をはかるなど、現在取り組んでいるエアレーションシステム以外にも、さまざまな策を検討してほしい。（山1、湘23）
- （3）情報の提供・理解の促進に関すること
- 老若男女を問わず、もっと広く県民にPRしてほしい。（西18、湘24）
- （4）環境教育に関すること
- 学校教育課程の中に位置づいた環境学習を行ってほしい。（西21・湘24）
- （5）市民活動への支援に関すること
- ア 若い世代が活動に参加するような取組を検討してほしい。（川7）
- イ 市民事業支援補助金制度を継続してほしい。（湘25・26）
- ウ 市民やNPOが継続的・発展的に活動している状況を県民に知らせてほしい。
（湘28）
- （6）県外対策に関すること
- ア 県境を越えて流域一体となって森林整備や環境保全活動等の問題を解決する仕組みを構築し、県外上流域の対策に取り組んでほしい。
（山5・7・9・10・13・15、川8）
- イ 神奈川県の水源環境保全税を県外上流域対策に使う場合、神奈川県民を説得するだけの裏付けが必要である。（山26）
- （7）その他
- ア フォーラムに参加して本当に良かった。体験型の参加企画などがあるとよい。
（西29・山20）
- イ 水を有効活用するための施策について検討してほしい。（川9・10）
- ウ 今後も地道な啓蒙活動を続けて行くことが肝要である。（川14）
- エ 県民がよく理解し、取組に参加することが一番大切であるため、県から働きかけをしてほしい。（川15）

第9回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（県西地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
1	森林整備等関連項目	【水源の森林づくり事業について】 植栽しているのは針葉樹林か？広葉樹林でも良いのではないか。山林で金がもつかる、もうからないの話ではないと思うが……。広葉樹林（くぬぎ・なら）を使った資源循環型の生活ができればと思うがどうか（難しいとは思いますが）。		有
2		【森林の整備】 自然林は整備する必要はないが人工林は整備する必要がある。人工林を自然林にもどすことは可能か？可能であれば、どのくらいの期間、費用がかかるのかお聞きしたいです。	(1)ア	有
3		パネルディスカッションでも質問させていただきましたが、人工林を自然林に戻すことは可能か？どのくらい期間費用が必要か？		有
4		水源環境保全・再生に関して県民の方々に人工林の荒廃状況はわかりにくく、森林整備の現場をまわる事で雨が降ったあとの土壌流出や作業道の水によるかんばつやシカの植圧による下草植生の後退などひどいもので下草植生がないことで土壌の乾燥も丹沢の問題だと考えてます。 今後も森林整備事業に水源環境保全税にさらなる拡充するべきだと、山が泣いてると実感してますので御協力をお願いします。	(1)ア	無
5		【森林関係事業について】 かながわ森林塾について、次期計画に位置付け、適切な目標設定とは、森林塾事業のみなおしを考えてとゆうことですか？		有
6		【森林塾と卒業生のケア】 持続的な人材の育成と供給を図る事は丹沢大山再生の重要な要因と考える。次期の水源環境税の利用計画に森林塾を適切に位置づける必要がある。又、育成した後の就業に際しても、雇用した事業体にも社会保険料の助成等の施策がなければ、雇用が進まないと考えられる。	(1)ウ	有
7		【森林塾 意見書P5 2-1 の発言について】 実際に森林で働いていますが、2-1の森林関係事業について多くは非常に納得できる物でしたが、「事業体が主体的に運営すべき」の一言に関しては通常の雇用と変わらず、また事業体にもその余裕がないため主体は県、参考意見の吸上げを事業体に促すという方が良いと感じるがどうでしょうか。		有
8		人材育成について かながわ森林塾の具体的組織活動人数等はどの位いるのか知りたい。		無
9		【木質バイオマス利用の振興策は】 木質資源の有効利用として建築材としての活用や、搬出に伴う経費の助成で県産材の利用促進を図っているところですが、木質燃料としての活用は設定されていない。県西部における虫害材の有効利用には合板だけでは消化しきれない現状であろう。虫害材の更新は必要でありその活用には燃料として熱源・電力としての活用をするべきと考える。	(1)カ	有
10		間伐材の利用はこういう場をうまく使えるのではないのでしょうか。今日普通のイスの他に間伐材で作られたイスがあったら面白いと思いました。	(1)カ	無
11		【林業労働者の環境について】 林業は山の中で働く仕事なので、普段、女性との出会いがなく、自分の将来を考えると不安です。行政的にはこのような問題をどのように考えているのでしょうか。		有
12		水源環境保全・再生施策はもっと拡大すべきであるが、土木業（会社）の参入により林業会社の仕事がうばわれ、そこで働く自分達労働者の給料が減っている現状があるので、そこは行政として考えなければいけない問題である。		有
13	水源環境への負荷軽減	生活排水で汚染されやすい身近な用水路などの浄化対策は、すでに始められているが、これらは定期的なメンテナンスが必要のはず。この作業に中高生等のクラブ活動や市民ボランティア、地域の子供会、労働組合などの力を借りても良いのではないか。最初は逆手が手がかかるだろうが、内部に指導者が育てれば、行政の手間は減り、監督が主になればコストも減になるだろう。参加者への体験啓発にもなり、身心の健康にもプラスになるかもしれない。	(2)ア	無
14		自然浄化対策の対象地に、金瀬川を加えてはどうか？ ここは取水堰の直上流のためか、水質がかなり悪いのか、水道水質上の問題河川として、しばしば名前が上がる。ここを浄化を試み、費用の一部は水道にも出させればよい。		無
15		合流式下水道の対策が急務。		無
16		降雨の初期に道路面を洗った水も相当に汚れている。この対策も必要そうとすると、分流式下水でも、初流には何らかの処理が欲しい。		無
17		小田原大橋を散歩していると飯泉取水堰の下流に油が浮いていたり茶色の汚れた水が流れている日が続いて流れている日があった。今日の場合、上流の話が多かったが、下流の汚れについて話がなかった。浄水場の管理体制に不安を感じた。地域資源の在り方に疑問を感じた。		有
18	情報提供・啓	これは一部の志ある人だけでは十分な対策ができないと思うので、広く県民に知らせて協力を得よう県の方での工夫も大事だと思う。	(3)	無
19		フォーラムの様子をビデオに録画してインターネットで公開するのも一つの広報手段ではないかと思えます。ただ、もともと興味がない人に興味を持ってもらえないといけません。		無

第9回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（県西地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
20	発	一般への周知を目的としているとするのなら単独ではなく、他のイベント等との共催が望ましいと思う。		無
21	環境教育	大人の活動はよく見え、よく聴くことが出来る。しかし、幼児・児童への働きかけの様子はほとんど見えてこない。各市町の園や学校教育の中に、自分達の住んでいる地域の川や山について学習されているのだろうか気になることです。是非、教育課程の中にしっかりと位置づいた学習がなされているようなものにして欲しい。	(4)	無
22	市民活動支援	【市民事業の評価基準について】 市民事業の「成果」をどのような基準において評価・モニターなされているかを伺いたいです。とくに普及・啓発の効果は、どのように評価なされているのでしょうか。		有
23	市民活動支援	【市民事業支援制度について】 2年の助成期間は短すぎる。水源環境税の期限と同じ5年間が望ましい。普及啓発事業の助成は50%である。水源の森林整備と同様の補助率を望む。		有
24	県外対策	【県外上流域対策関係】 山梨県側水源林への関わり方について、ソフト面で森林塾生の受け入れとは、どうゆう事ですか？		有
25	県外対策	保全は流域で見なければできない。県内のみ限定しては効果は非常に限られる。		無
26		酒匂川の今後について、県としての検討課題はありますか。		有
27		【県民会議について】 県民会議のための予算はどこから支出されて、一回の集会の催しにどれだけ、又、年間の予算額はどれだけ支出されているのですか。 企画の内容に問題があると思う。本来この会議の主旨は、県民環境税の予算の使い方の点検、御意見番ではなかったのですか。「酒匂川を知ろう、市民活動の発表は別の設定で十分にやってほしいです」		有
28		・水源環境税について 現在、県民の所得をベースに算出していますが、事業目的から「水道使用量」とすべきではないか。現在の税は「法人」が対象外となっているが、対象とすべきである。 について 県議会、専門家で検討することを望む。		無
29		水源環境保全税は少ないのではないのでしょうか。 この会に出席させていただき、本当に良かったです。空席が多く残念でした。高校生などが参加できたらと思いました。	(7)ア	無
30		主に江戸時代に作られた水源保全システムを、継承（修復も含む）しなくてはならない。 シンガポール並の水源管理が必要ではないか。 大手企業はほぼ水質を改善しているが、個人および個人商店の水質保全が問題と思う。大変難しいが1ヶ潰して行くしかないだろう。		無
31		私はこの地域の人間ではないので酒匂川のこと全然知りませんでした。今日は良い勉強になりました。		無
32		心安らく豊かな自然、澄んできれいな酒匂川の流れ、15分程度歩いてながめる浅間山（河村域址への途次）からの初日の出。30～40代に山開き登った檜洞丸、川の源流を求めて歩いた中川川、そして犬越路、知人を訪ねた、かつての世附村（合併して三保村になってからですが）。これらの豊かな自然をどの様に守っていくか（保全していくか）。		無
33	その他	【県西材の利用について】 小田原市は約1600haの森林の管理者であるがその有効利用の計画を策定し、実施するべきと考える。県西材の多くは虫害で建築材としては一部合板に利用されているだけである。市の施設の熱源と電力源そしてCO2の削減源としての活用を強く望むところです。市として長期計画の策定とその実施を望むところです。	(1)カ	有
34		【酒匂川の水量を守るために（今日お話が合ったことを踏まえて）】 小田原市として 400年後あるいは100年後でも、十分な水量を確保している状況にする為に特に水源域に対してどのような施策の施行を考えていますか？ に関して神奈川県他地域に提言したい内容はありますか。		有
35		【市長になられてから川の施策は行っていますか】 都市でありながら水源地の意識を持つことは少ないように見受けられるのが一般的ですが、小田原市は市長さんの思いが川に向けられ、そのことによって市政に反映されることを願います。具体的に川の施策を実施又は予定はされていますか。		有
36		【生物多様性の実現をはかる為に】 所有レベルでの森林（丹沢・大山）の再生の為に啓発活動が少ないと思われる。小規模森林所有者にも直接的に森林所得が生じる施策として、自己所有林の生き物調査を実施してその調査と、施策により特定生物が増加した場合に、その施策に対して助成するという施策は考えられないか。その結果として生物が多様となり生き物豊かな森林の造成が可能となる。		無
37		【私有地での産廃物処分について】 私有地にその所有者が産廃物を処分しても取り締まれないと聞きましたがどうなっていますか。 有害物の流出など問題です。		有

第9回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（県西地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
38		森林作業を生業としております。現場を思い浮かべながら聞かせていただきました。加藤市長の林業、林家、木材等のお話を聞く事ができ、嬉しかったです。		無
39		【未来への虹】 今、この会場に向かう途上、酒匂川河口に向けて、みごとな虹がかかっていました。未来に向けての希望と息を吐きたい！です。		有
40		小山田氏を講師にして学校の児童に話してもらいたい。又、私の所属している会で講演してほしいと思いません。		無

第10回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（山梨県フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
1	水源 負荷 環境 軽減 への	【水がめ相模湖・津久井湖のアオコはなくせるだろうか】 今年も湖にアオコが異常に発生しています。湖は富栄養化状態にあります。 平成20年参考値全チッソ0.2mg/l、相模・津久井湖とも1.3mg/lと濃度が高い。 全リンは参考値0.01mg/l、相模湖0.079、津久井湖0.05と濃度が高い。 日本でアオコ対策に成功している諏訪湖のようにできる公算はいかがですか。現在取り組んでいるエアレーションシステム以外の対策を聞きたい。	(2)イ	有
2		河川にやたらにダムや発電所を作ったりせず、また、し尿処理場（浄水・下水）を作ったりせず、全面見直しが必要である。		無
3	情報 提供	【上流域の森林についての県民へのPR】 県境を越えた上流域の森林の状況については、県民に何か伝えているのか？		有
4		山梨県からの恩恵を広く県民に伝えるべきだ。		無
5	県外 対策	同取組を山梨県側で実施していくために何をクリアしなければならないのか。県境を越えて流域一体となって森林・林業問題を解決していける仕組みをつくり上げて頂きたいと願っております。（特に木を使うことにより森を守る取組） 森林整備に関しても、県境を越えて応援協力が活発に連携出来ればと考えております。 最後にもし可能であればテーマ別のフォーラムもご検討頂ければ更によいフォーラムになると考えます。 （是非、森・林業フォーラムをご検討ください）	(6)ア	有
6		水源の森林づくりということであれば、上流の森林に対しても拡大していかなければ片手落ちであると感じました。		無
7	県外 対策	・相模川流域の森林整備を進め、水源の涵養をどう維持していくのか。 ・県の枠を超えて、山梨・神奈川流域全体として考える必要あり。 ・世界的に資源の争奪が著しい。安心安全な水をどう確保していくのか、流域全体として取り組みをお願いしたい。	(6)ア	無
8		桂川流域の森林整備		有
9	県外 対策	【神奈川県と山梨県 流域関係市町村との交流（意見交換）について】 これまで補助金の関係しかなかったように記憶している。議会・市民レベルの交流をどうしていくか。検討すべきではないか？ 広域行政について県の職員目で見るとどうなのか？ 特に保水と水質保全について。	(6)ア	有
10		山梨県の森林環境保全は、山梨県の行政・住民が取り組むべき課題だが、今回のフォーラムに参加し、流域の自治体全体での連携の必要性が理解できた。 パネリストの方のお話から、環境保全活動の現場での財政面での課題が伺えた。神奈川県民が桂川の水の恩恵を受けているのであれば、県は広報活動に力を入れていただき（自分達の生活水の出所を知っている人は、とても少ないと思います。）水源環境保全税の用途等、資金の流れを透明にして、県民の生活水に対する関心を高めてほしいと思う。	(6)ア	無
11	県外 対策	私は神奈川で生まれ、現在山梨で森林整備に従事しています。常々思うことは、神奈川にいた頃には山梨を知らず、山梨に来てからは神奈川が見えない、ということです。物理的に、あるいは流域・森林帯としては一つのつながりなのですが、情報の流れが行政区分で途切れてしまっているように感じます。 意図的な情報封鎖があるわけではないのですが、これほどまでに情報の断絶があることに違和感を持って臨むべきではないかと思えます。		無
12		山梨県と連携して、住民と向かいあいながら施策を進めていってほしい。		無
13	県外 対策	・山梨県で県民フォーラムを実施したことの意義は高いと思います。 ・このような、神奈川・山梨にまたがる行政と市民と協働による催事を途切れることなく継続させていくことが大事であると考えます。 ・水源環境の保全のためには、山梨・神奈川の県境を越えた広域事業対策（資金面も含め）が早急に必要となる時期となっていると感じます。	(6)ア	無
14		・パネリストの話にもありましたが、県境の垣根を越えた取り組みが今後は必要と思われます。 ・それぞれの県民の意識は異なると感じ、また、理解されている人がどれくらいいるのか、見えない部分もあるので、県民同士の交流を深めた取り組みが必要であると感じました。		無
15	県外 対策	・川には上流があって下流があるもの。上手に交流会を持ち、相互理解を深めていく努力が必要。知っている人、知らない人にも環境問題として周知させたい。 ・山梨県はやはり金銭面での不安が前面に出てくる。	(6)ア	無
16		山梨県（行政・民間）で行う各種水源環境保全に係る事業に資金援助をしていくべき。 金を出すから口も出す、でいいと思います。		無
17	両県の水源税の一部を一体型の基金として、山梨県側の事業を実施すればよいのでは。		無	

第10回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（山梨県フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
18		<ul style="list-style-type: none"> ・河西氏の主張はもっとも。 ・行政は必要な時に"住民参加"を言うだけではなく、大きなお金の動くと思われる政策についても、もっとオープンな参加を可能とする方策を考えるべきではないか。さらに、神奈川県が進めているダム湖の植物浄化について、山梨県の大門ダムに見事な失敗例がある。科学的な評価が必要ではないか。 ・この流域は日本の中でも非常に重要な場所（歴史的に見ても）。今後日本国内でもモデルとなるような上下流の交流を通し、真の循環システムを作るべきではないか。山梨側の行政の姿勢も試されていると自覚すべき。 ・更に山中湖の水源の一つが富士山であることに触れてほしい。上・下流の交流の重要性を言うにはよい対象となるはずなので。 		無
19		<p>予想以上の参加者があり良かったと思うが、河西さんの言われたように、神奈川県民にもっと聞かせたい内容だと感じた。できれば神奈川県内で行われる県民フォーラムに流域関係者を参加させ、少しの時間でも説明してもらえば、神奈川県民、特に横浜市民は道志川だけではない事がわかるのではないか。</p>		無
20		<p>今回、初めてこういったフォーラムに参加しました。神奈川・山梨県民ではありませんが、川は色々な県をまたがっているということを実感しました。自分の県に流れている川だけでなく源流も大切にすべきだという考えが生まれました。また参加したいと思います。体験型の集まり等期待しています。</p>	(7)ア	無
21		<p>都留市の大学に通う学生です。以前から、神奈川の水源地環境税の取り組みに関心を持っておりまして。神奈川の水源地環境税となる桂川・相模川の上流に住む人間として何が出来るか、「流域」を市民がどんなふうにつまえているかをテーマに研究しています。</p> <p>流域を考える上での先進問題として、矢作川の取り組みに注目しています。そのなかで、上・中・下流をつなげるのが、水質悪化（公害）から始まった市民の水質保全運動や漁協の運動だということを知りました。河川が県をまたぐなど地理的な問題もあり、どの河川も固有の事情を抱えているとお察しします。私も流域市民として、どう行動し参加していくか考えていきたいです。</p>		無
22		<p>両県の環境に対する意見・関心には温度差があるかもしれませんが、一層の取り組みを期待します。</p>		無
23		<p>神奈川県では、山を良くしよう・川を良くしよう・水をきれいにしようとして税金を高くしてまでも取り組んでいると聞く。山梨県民も下流域に笑われないように積極的に同様な取り組みを始めないといけない。どうしたら良いのか。直ちに行動しなければ！</p>		有
24		<p>上流域である山梨県は、現状を理解し早急に対処すべきであると感じました。</p>		無
25		<p>パネラー一人一人の中の県境が取り扱われていないと思いました。</p>		無
26		<p>【県境の壁を取る具体策は？】 流域単位の中でどう壁を取り除くか、という河西さんの話であるが、それは神奈川県の水源地環境税から予算を取って欲しいのか、山梨県の新税（森林税？）に加えて欲しいのか。または、流域として応分負担に両県から予算を取るのか。神奈川県の水源地環境税を使う場合、神奈川県民を説得するだけの裏付けが必要であると思う。</p>	(6)イ	有
27	その他	<p>【山梨県の理解度】 市民活動の頑張りには限度があります。県としての助言、アドバイス、協力（金銭的にも）はどうですか。</p>		有
28		<p>【森林作業道について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・崩れない作業道の工法はどのようなものですか。 ・幅員は何メートルですか。どんな機械で造るのですか。 ・費用は1メートル当たりどの位かかりますか。 ・作業道研修の日程を詳しく教えて下さい。 		有
29		<p>作業道の開設は森林整備の中でも優先して実施されるべきことですが、水源地環境税の使途として神奈川県民に理解を求めるには、開設の重要性あるいは森林整備や素材生産についての認知度がいまだに低いと思われます。今後、市民レベルまで上流の課題を示してゆく中で、こういった取り組みを行っていいのか。回答願います。（一方的な発信ではなく、対話として山梨・神奈川の協働は可能なのでしょうか）</p>		有
30		<p>【担い手はどうなっていますか】 ご苦労され林道開設され今に至っている様子、熱く感じられた。現場で活躍される担い手の苦労はありませんか？年齢・人数・地元の協力など。</p>		有
31		<p>【流域の栄養塩負荷の原因調査について】 自然由来が多いことについて、汚染のメカニズムをどこまで解明するつもりか？例えば、Nの安定同位体のみで人為由来は言いきれないのでは？（脱窒が進めば高くなる） 流域調査 森林対策前後の は？</p>		有
32		<p>N安定同位体 15Nについて化学的に説明してください。14Nとの関係について</p>		有
33		<p>【アオコの活用】 以前、東大研究室が商品開発した「ミドリムシクッキー」をお土産でもらったことがあるが、ダムで発生したアオコで同じく商品開発はできないのだろうか？</p>		有
34		<p>【山村に「森林所有者」がいなくなることについて】 先ほどのお話で、山梨県内桂側流域の私有林の荒廃が59%を占めているとありました。今、全国的にその荒廃林を大規模にわたり外国企業が買収に来ていると言われております。山梨県でもその動きが見られるのか？状況についてわかる範囲で教えて下さい。</p>		有

第11回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（川崎・横浜地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
1	森林整備等関連項目	水源環境保全は重要だと考える。 そのためには森の再生が必要と考える。 森の再生は、システムの（総合的）に行わないと効果がなく、又、ボランティアレベルではなく、行政としての取組み、リーダーシップが重要と考える。（単独ではなく複数） そのため、財源が必要であれば、その点をPRし、恒常的に確保すべきである。	(1)イ	無
2		「シカ対策」 国定公園内、県道にシカ柵は無い。川にも柵は作っていない。シカはそこから下に入り、今年の秋、田んぼの稲穂まで被害が及んでしまった。対策の方法の大きな見直しをしない限り、頭数減らしにはつながらない。 農家はひたすら自分達の田や畑に電気柵を張りめぐらす労を惜しまない。	(1)エ	無
3		【森林保全、間伐材の有効活用】 最近、横浜市内の県立公園（小水源里山エリア）で永年続けられてきた間伐材の炭焼が、少数の住民の抗議でできなくなったと云う（けむり、におい、ガマンできない）。 （県が中止を指導したときいている） 資源有効利用のためには「炭焼存続」が望ましいのではないかと。	(1)カ	有
4	水源環境への負荷軽減	県内のダムについての話はよく分かりました。 大切なダムの存続に関して造り替えなどは出来ないものです。 良質な水の供給のために更に努力・研究を望みます。		無
5		【水の浄化について（水の利用） 過去の大規模住宅開発地域の下水道普及について】 30～40年前に開発された大規模戸建住宅は、殆どが旧式の個別浄化槽を利用している。ようやく、下水道が開通しても、なかなか本管への接続が進まない。これは居住者の高齢化により、費用を調達できないことが主たる原因である。年金生活者にとって、今の補助金程度では接続資金が不足する。更なる抜本的補助制度を設ける必要性はないか。検討はしているのか。その必要性についての考えは。 各施策の実施説明をもっとしていねいにしたあとで、次の計画をすることがいい。		有
6	情報提供			無
7	市民支援活動	今後の日本・神奈川を考えるためには、若い世代（大学生～40代）にもこのような活動を共有することが重要だと考えますが、行政としてこのような世代（大学生～40代）に対するアプローチとして、どのような活動をされているか。 また、その結果はどうであるか教えて下さい。 （このような場に来る若い人が少ないのが残念です）	(5)ア	有
8	対県策外	水源環境税は何%位山梨県に出されているのでしょうか。 出されているとすればどのような所に出されているのでしょうか。 桂川の浄化は必要と思います。	(6)ア	有
9	その他	【もう一つの水源について 雨水の利用に関する推進政策について】 住宅地等に降った雨水は、浸透しきれない「いっ水」、あふれた分は、雨水管としてほとんどが川へ導水されているとみられる。一方、庭の水やり、自動車の洗車には水道水が大量に使用され、これも川に流されていると思う。住宅やアスファルト道路、街路、舗石の広場に降った水のうちあふれた水を有効利用することは急務と考えるが、行政側としては新築住宅補助その他どのような施策を行っているか、或はしようと考えているか。その必要性についての考えは？	(7)イ	有
10		1. 都市部水源の確保・利用についての政策の推進状況はどうか。 （アスファルト、コンクリート、屋根の降水の活用） 2. 地球環境の保全・良化の総合政策の中での位置づけを明確にすべきでは。 3. 緑に関する税金は結局水資源対策である。 その水の有効利用にもその資金を投入すべきではないか。	(7)イ	有
11		・行政、企業、NPO、県民が協働して進めていかななくてはならない。		無
12	日本で施行している水源環境に対する取組について、海外と協力して新しい技術を開発する予定はないのか。 川崎市がオーストラリアと協働（支援？）をするという新聞の記事を読んだが、県として関わっていくことはないのか。		有	
13	・山北町より参加させていただきました。 「私たちの水はどこから来ているのか」に大きな関心を持って参加しました。 ・若い世代への動機づけ（関心をもたせる）や活動の具体策等の話も出ましたが、さて、自分たちの地域ではどうか、となるとむずかしい問題です。		無	
14	県の取組みは立派なものだと日頃から感じています。 国全体が少子高齢化や経済成長の鈍化などの大局的な問題を抱えている訳ですから、突飛な計画や即効性のある対策は困難だろうと思います。 今後とも地道な啓蒙活動を続けて行かれる事が肝要だろうと思います。	(7)ウ	無	
15	気候変動、災害と生命にかかわることなので環境には保全・再生と取組が大切に思う。 本日のフォーラムは内容がやさしく判りやすかった。環境問題は、専門家が難しく述べることが多い。県民がよく理解して、取組に参加することが一番大切なことだと思う。県として、そのような働きかけをお願いしたい。	(7)エ	無	

第11回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（川崎・横浜地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
16		とても分かりやすく興味深い内容であったと思います。 今後もより良い水源環境保全の施策を期待します。		有
17		【森に学ぼうプロジェクトについて】 参加された子供達の反応はどうか？ 特に気付いた事があれば紹介して下さい。		有
18		【中学生に対する森林整備の詳細を】 ・21年度の参加した中学生数 ・21年度にどの位の面積が整備できたのか ・21年度の経費総額は		有
19		【森林劣化のスピードの変化はどうなっているか】 安全・安定の水の確保に森林の役割は需要である。戦後の劣化のスピードはどのように変化しているか。		有

第12回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
1	森林整備等関連項目	林家が（または企業が）育林施策で経済が成り立つよう、当面の国や行政の施策が必要。		無
2		丹沢地域の水源林の整備が最近多くの場所で見られるが、植林地においては整備が非常に遅れていると思う。所有者に任せておくだけでなく、国として強制的に管理してほしい。（花粉症などの事もある）		有
3		A 保安林を各々チェックして欲しい。 B 水源の森林エリア、地域水源林エリアの地積調査の進捗率を知りたい。		有
4		【人工林について】 先程、人工林率50%程と言っていたが、将来的にどの位まで減らしていきたいのか？早急に人工林を減らしていく事が生物多様性につながると思うのだが…。そのためには、林業関係者だけでなく市民、自然保護団体も使い、行っていったら良いのではないかと思います。		有
5		人間とシカとの共生に限って言えば（シカに限らず、クマ、イノシシ、ウサギなどのすべてについて）過剰にふえすぎている個体数は適正な数にへらす必要がある。シカにとっても不幸なこと。とったシカは、無駄にすることなく、シカ鍋その他、地域おこしに活用する。さらに大事なことは、ヒトの生活圏に入ると（近づくと）たいへん危険だ、ということをしかり教えること。とくに、子ジカや親子つれに、人里近くでは生命の危険がある、ということをしらせること。（大昔は、わななどで、誰でもシカやイノシシをとっていたはず）	(1)工	無
6		・シカの保護管理がうまくいっているのか。その点が具体的でなかった。現状は語られたが、方策の効果が語られていなかったのではないかと。	(1)工	無
7		・シカの食害などの実態の説明が少なかった。 ・ハンターが減少する状況下で効率的な頭数管理のためには外部（県外）からのハンター導入が必要では。あるいは、広域的な協力で（関東甲信越）ハンターチームを編成するのが良いのでは。		無
8		・生物多様性のある水源地作りをしてもらいたい。できれば駆除（動物）という形を取らずに。 ・多様性のある山にする事が、人への被害も少なくなると思います。 ・オオカミの導入について話されていたが、やめた方が良い。丹沢は狭いし、シカだけ食べる訳でもないでしょう。登山者の多い丹沢では人への被害も出るだろうし、もちろん農作物にも被害が多くなると思います。結局、オオカミ駆除という事になり、良い事はないでしょう。シカの事だけでなくその先もみて下さい。	(1)E・O	有
9		【シカ等鳥獣害の天敵の移入について】 全国で鳥獣による農・林業への被害が増加し続けている。一方で猟師の数は減少しており、バランスは大きく崩れてきている。 こうした中で、一部市町村では天敵（オオカミ）の移入を環境省へ働きかけようとしている。神奈川県でもぜひ検討したい。		有
10		【意見として】 現に、シカによる農林業被害が増加している中で一体管理ができるのか？まずは適正頭数にするための駆除が必要だと思います。	(1)工	有
11		【シカの管理について】 捕獲が有効というのが私見ですが、ハンターの高齢化が叫ばれています。ハンターの養成などの計画はありますか。	(1)工	有
12		荒れている人工林に比べて、森林整備をした後の人工林には、シカなどの野生動物が集まってくるものなのではないでしょうか？教えて下さい。		有
13		【シカの減らし方】 現在4,000頭ぐらいの生息数と言われているが、全てのシカが安心して住めるとは思わない。自然淘汰も含め、個体数管理を人的に行っても良いと思うがいかがですか。	(1)工	有
14		ブナハバチによるブナ食害対策の研究が行われるようだが、昆虫等の大発生は環境汚染で弱った樹木等に特異的にあらわれる。都会地のアメリカシロヒトリも、交通量の多い街路樹に大発生するし、数年前の八甲田山のブナ・ブランコ毛虫の発生も、県道など車の多く走る道沿いの被害が大きかったと聞く。丹沢山地への土日休日のマイカー規制なども検討する必要があると聞く。		無
15		山ゴミ対策 ゴミ箱の撤去でOK。		無
16		【輸入材と国産材】 木材需要の80%が外国産に頼っています。今後外国産材の減少に対して国産材（植林地）の対応、シカとの問題、どのように協調出来るのか。 単一樹種林から複層林化、混交林化と森林資源の確保、シカとの共存は？		有
17		【森が循環する為には県産材に助成金をつけたら!?】 林業が成立するためには、材が循環することが必要だと思います。間伐材の搬出量も少ないように思いますし、県産材は高くなる為、消費者には使いづらい状況です。県産材を使う場合に消費者に助成金が付けば成り立つのでしょうか。成り立つためには、具体的にいくらぐらいの金額なのでしょうか。		有
18		【林業が成り立つために】 材として売る林業ではなく、環境林としての価値を生む林業、という考え方はないのですか？整備した森林の価値評価が必要となります。		有
19		山林が外国人等に売却される事の阻止。		無

第12回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）意見集約表

番号	項目	内容	本文への掲載	回答希望
20		山林所有者が勝手に外国人に売却されている事が問題になっています。当県でその様な事実がありますか？その防止策に役立つ事に先生方の考え方を聞かせて下さい。		有
21		【外国人による森林買収について】 報道によると、中国人による手荒な買収劇が伝えられています。神奈川の山は大丈夫ですか？事前にストップできるような考えはスタートしていますか？		有
22		【林道の修復、また工事について】 22年9月8日の台風9号により、東京神奈川森林管理署内の大又沢林道、水の木幹線林道が壊滅的被害に会い、復旧に10年以上かかるとの事である。その間、植林・間伐・除伐が出来ない状態であると思いますが？また、現在、山北町内で八丁・神縄林道の工事が進行中であるが、その間、人の手により自然破壊が行われていると思うが？		有
23	水源環境への負荷軽減へ	ダム湖の水質改善策について、上流域の下水道対策に加えて、ダム湖自体に蓄積した（または、毎日流入する）ヘドロと、自然流入有機物等の削減について、更なる工夫をはかってほしい。 現行エアレーションは、有効なものであるが、十分な成果を期待するにはほど遠いものと思われる。まだいろいろ方法があると思われるので、さまざまな策を検討してほしい。	(2)イ	無
24	情報提供・啓発	もっと広く、県民・老若男女にPRすべきだと思います。パネラーからも報告あった、教育（委）を通じての子ども達への教育として、またPTA活動を通しての保護者への啓蒙が良いと思います。	(3) (4)	無
25		【水源の森林づくり事業】 市民事業支援補助金制度は、5年間の期限付きで各地域で里地・里山の森林保全を実施しているわけですが、この5年間で各補助事業の成果判断ができるでしょうか。森林整備には、10年以上の経過観察が必要だと思います。このことから、5年限りを少なくとも10年の継続を要請するものです。5年限りにするとパラマキ事業ではないかと批判されると思う。	(5)イ	有
26	市民活動支援	市民事業支援補助金5年間期限付制度で、森林整備保全の成果判断ができるのでしょうか。里地・里山の森林は10年単位での経過観察が必要ですので、10年間は延長する必要があると考えます。5年で終わりにすると、「パラマキ事業」と批判されると推察します。10年延長をご検討下さい。なお、補助額は1団体、管理費として10万限度でも良い。 第2期事業計画（案）の実行を願います。	(5)イ	無
27		・水源環境保全・再生活動は、直接の森林の作業だけでなく普及啓発にも力を入れるべき。もり・みず市民事業支援補助金の補助率・金額の改善をお願いします。		無
28		【豊かな森づくりへの活動をもっともっと応援してほしい】 山口さんへ ホームページを開設しておられると思いますので教えて下さい。 貴NPOの活動が伊勢原でどのようにひろがっていますか？ 行政へ このように市民達のNPOが継続的に発展的に活動している状況を県民に知らせて欲しい。可能か？	(5)ウ	有
29		活動を進めていく上で、行政に求めるものは何か。		有
30		・長期継続的な取り組みが必要 ・若い人達の育成が必要と思う。（青少年の育成）		無
31		・平成24年以降も引き続いて（水源税を含め）更なる努力をして欲しい。 ・都市部出身の県会議員に理解を十分実施して欲しい。		無
32	その他	それぞれのパネリストからの提案、いろいろ考えさせられました。		無
33		・会場でのQAは良かった。もっと時間を！		無
34		【表題の意味を知りたい】 「一体管理」と「管理」の違いは何か。聞きなれない言葉なので教えて下さい。		有

第9回 (県西地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

酒匂川流域から見た水源環境保全・再生について

日 時：平成22年7月29日(木) 18:30～20:30

場 所：小田原市生涯学習センターけやき 2階ホール

～ プログラム ～

- 18:00 開 場
- 18:30 開 会
主催者あいさつ
水源環境保全・再生かながわ県民会議副座長 新堀 豊彦
- 18:35 水源環境保全・再生施策 平成19～21年度事業実績
神奈川県 水源環境保全課長 河原 知徳
- 18:50 次期「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に関する意見書について
水源環境保全・再生かながわ県民会議委員 高橋 弘二
- 19:00 パネリスト活動報告・意見発表
コーディネーター
浅枝 隆(埼玉大学大学院理工学研究科教授 水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)
パネリスト
加藤 憲一(小田原市長)
小山田大和(酒匂川を伝える会代表)
稲葉 定義(特定非営利活動法人しのくぼ専務理事)
- 19:35 パネルディスカッション
これからの水源環境への取組について、会場の皆様からの御意見・御質問を基に議論を行います。
- 20:30 閉会



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

本日の配付資料

プログラム(本紙)、『かながわの水源環境の保全・再生をめざして』、『水源環境保全・再生施策 平成19～21年度事業実績』、第1回県民フォーラム意見等への回答、『次期「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」に関する意見書』、『酒匂川を見つめなおしてみませんか』、『県西の地域資源を見つめなおしてみませんか?』、『酒匂川流域の都市づくりまちなみマップ』、NPOしのくぼ稲葉氏参考資料、質問用紙(2枚)、アンケート用紙、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『かながわの水がめ』

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

埼玉大学大学院理工学研究科教授 あさえだ たかし 浅枝 隆

埼玉大学大学院理工学研究科教授。工学博士。東京大学工学部助教授、埼玉大学工学部助教授などを経て2000年より現職。「水源環境保全・再生かながわ県民会議」において施策調査専門委員会委員を務める。専門は応用生態工学、環境水理学。現在の研究分野は、河川や湖沼の生態に関する研究。砂州の草本化や樹林化の機構の解明、大型水生植物や付着藻の生長と分解過程、物質循環への役割、河川上流部の有機物収支、動植物プランクトンや魚等の生態解析に従事。

パネリスト

小田原市長 かとう けんいち 加藤 憲一

1964年小田原生まれ。京都大学法学部卒。経営戦略コンサルティング会社、民間教育団体、農業、漁業、商業ビル企画管理、地域シンクタンク代表などを経て、2008年5月より第20代小田原市長。

酒匂川を伝える会代表 おやまだ やまと 小山田 大和

県が事務局の「酒匂川流域の交流ネットワーク会議」（2009年3月解散）に2001年、学生時から参加。街づくり提言を手掛けると同時に『酒匂川を見つめなおしてみませんか』を執筆し小学校等で出前授業等を行う。その後、「酒匂川を伝える会」を創設し、堤防の清掃草刈り活動や、開成町にある「酒匂川ふれあい館」の土曜日開館等を手掛ける。あわせて市民活動補助金を得て新冊子を制作。流域の地域資源の普及に努める。2009年には住民有志により設立された「酒匂川ネットワーク会議」に参加・活動中。

現在、郵便局株式会社平塚郵便局勤務。30歳。

特定非営利活動法人しのくぼ専務理事 いなば さだよし 稲葉 定義

神奈川県庁勤務時代、酒匂川水系の三保ダム、相模川水系の宮ヶ瀬ダム事業等に従事。2005年に「特定非営利活動法人（NPO）しのくぼ」を10名の仲間とともに設立し、中山間地域の自然環境の保全・生活環境の保全に関する活動を行う。2008年度より神奈川県水源環境保全・再生事業に参加。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県 環境農政局 水・緑部 水源環境保全課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4352 F A X：045(210)8849

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/0517/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 22 年 7 月 29 日に開催した「第 9 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム(県西地域フォーラム)」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 9 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム(県西地域フォーラム)	
	企画運営委員	片山幸男 高橋弘二 高橋二三代 増田清美
開催日時	平成 22 年 7 月 29 日(木) 18:30~20:50	
開催場所	小田原市生涯学習センターけやき 2 階ホール	
出席者	浅枝隆(1) 井伊秀博、片山幸男(2) 加山俊夫(代理出席)、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子、木平勇吉、小林信雄、高橋弘二、高橋二三代、増田清美、柳川三郎 1 コーディネーター 2 主催者あいさつ	
参加者	105 名	
報告者	高橋二三代	
内 容	<p>1 . 主催者あいさつ 片山委員 県西地域での開催も 2 回目を迎えた。 酒匂川の水源地環境保全・再生については、小田原市が中心となり酒匂川水系保全協議会が組織され、水質浄化に努められている。フォーラムでいただいたご意見については、24 年度からの次期 5 年計画に反映させていきたい。</p> <p>2 . 水源環境保全・再生施策平成 19~21 年度 事業実績 水源環境保全・再生事業の平成 19~21 年度実績について県・河原水源環境保全課長から説明を行った。</p> <p>3 . 次期「かながわ水源環境保全・再生実行 5 年計画」に関する意見書について 次期「かながわ水源環境保全・再生実行 5 年計画」に関する意見書について、高橋(弘) 委員から説明を行った。</p> <p>4 . パネルディスカッション コーディネーター 埼玉大学大学院理工学研究科教授 浅 枝 隆 パネリスト 小田原市長 加 藤 憲 一 " 酒匂川を伝える会代表 小山田 大 和 " 特定非営利活動法人しのくぼ専務理事 稲 葉 定 義</p> <p>各パネリストからの活動報告に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p> <p>活動事例・意見発表 (加藤氏) 学生として、社会人として、あるいは農業従事者として酒匂川と深い関わりを持ってきた。また、小田原市長になってからは「酒匂川水系保全協議会」の会長を務めるなど、酒匂川はまさに自分が育ってきたフィールドである。 酒匂川は広域連携に欠かせない。これからの地域は、自治体という区分よりも水系というエリアをベースとして絆が作られていくと思っている。周辺の自治体と連携をして酒匂川の保全に努めていきたい。酒匂川が地域統合のシンボル・郷土愛の象徴になっていく。 我々の暮らしが都市部の方たちの飲み水の水質を決めているということは、肝に銘じておかなければならない。 水質は高度成長期に生活排水や企業排水により悪化したが、流域の住民・企業の方の努力により改善された。水量は水源林の荒廃などにより減少しており、問題となっている。こうした中で、水源環境保全税の果たす役割は重要である。 我々の子孫のために、我々の世代が果たすべき環境再生への取組に着手するべく、大きなビジョンを掲げて行動していかなければならない。</p>	



片山委員

<p>内 容 (続 き)</p>	<p>(小 山 田 氏) 酒匂川は人や物をつなげるネットワークであり、素晴らしい地域資源である。学生時代から「酒匂川流域の交流ネットワーク会議」に参加。酒匂川という素晴らしい地域資源を伝えるべく冊子を作成し、小学校での出前授業を行っている。また、講演など地道な活動を積み重ねて、この地域の良さを伝えている。堤防の草刈りなど現場の活動なども行っている。酒匂川流域に松並木がある。これは、かつての住民たちが堤防を強くするため、自ら費用を捻出して植えたものであり、きちんと守っていくべきである。</p> <p>(稲 葉 氏) 100 年前、50 年前、現在の酒匂川流域の地形図を見比べると、昭和 30 年代ごろから開発が進み水源涵養の役割が果たせなくなりつつある実態が見える。水源環境は山間部が担うものと思われがちであるが、かつては平野部も水田という水源環境を立派に保ってきた。NPO しのくぼは地域水源林となる大井町の中山間地域で環境保全対策を実施している。平成 20 年度より「市民事業支援活動補助金」を得て活動している。活動が点から面へと広がりを見せている。</p> <p>パネルディスカッション 【酒匂川流域の現状について】</p> <p>(浅 枝 氏) 丹沢湖の全リンの数値は低く、アオコは発生していないが、今後も注意し排水等を流さないことが必要である。それがこの地域の財産を守り、都市部の水源を守ることにもつながる。酒匂川の BOD の数値も低く非常に水質が良い。急流ということだけでなく、住民の方が気を使ってくれているからであると思うが、今後も流域全体で注意していくことが必要である。</p> <p>【将来の酒匂川の姿と水源環境保全税について】</p> <p>(加 藤 氏) 地域を流れる川との一体感を取り戻していくことが必要である。また、酒匂川を守るため、直接この流域に住んでいる人たちだけでなく、酒匂川の水を飲んでいる都市部の人たちとも、大きな意味での水系を共有した人間として絆を作っていく必要がある。</p> <p>(小 山 田 氏) 自分たちでできることは自分たちで極力行なって、どうしてもできないことを行政と一緒にやっていくという心づもりが我々市民活動団体にとって大事である。</p> <p>(稲 葉 氏) 市民事業支援活動補助金の継続をぜひお願いしたい。ここ 2・3 年の活動を通して、地域の荒廃という「負の連鎖」を断ち切ることができつつあることはうれしいことである。</p>
------------------------	--



コーディネーター
(浅枝委員)



パネリスト(左から加藤氏、
小山田氏、稲葉氏)

第 9 回 県民フォーラム企画運営委員の感想

<p>片山幸男</p>	<p>当日は雨模様で、市民の出足も鈍く、参加者は105名という結果に終わってしまった。前回は山北町で開催されたが、全国植樹祭実施などの明るい話題があったり、地域が森林区域であることなどの理由から、250名の参加者があった。しかし、今回は、最下流の小田原市内での開催ということから、水源林整備の必要性も認められても、それが即、住民参加に結びつきにくかったというのが、参加者が限定された要因ではなかったのではなかろうか。</p>
<p>高橋弘二</p>	<p>パネリストの報告から、流域に恵みをもたらす酒匂川に対する愛着が感じられました。酒匂川流域が、横兵や私の住んでいる横須賀・三浦の水道水原になっていることを知り(再認識)、酒匂川流域の環境保全に関わっている方々の努力に感謝しなければと感じました。しかし、それぞれの地域のどなたかの人がそのことを知っているだろうか？</p>
<p>高橋二三代</p>	<p>今回のフォーラムにおいて、新たな酒匂川情報を沢山知ることが出来ました。県内全域での水源環境保全事業の多くは酒匂川に通じている事で、流域に生活する私たちのみならず、神奈川県民の大切な川であることも痛感しました。多方面に案内のチラシを配布しましたが、参加者の少なかったことがとても残念に思います。今後の課題の一つです。</p>
<p>増田清美</p>	<p>県内全域を流れる酒匂川の水は、都市部(横兵・川崎)の市民に供給されているが未だに浸透されていない感があり、水源地で暮らす県内全域住民との温度差は否めなし。しかし、パネリストの「供給できる水資源を持っていることは素晴らしい。地域資源を持つ県内全域共守る」の言葉が強く、これからも都市部の人たちに理解してもらおう努力をすべきと感じた。</p>

第9回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

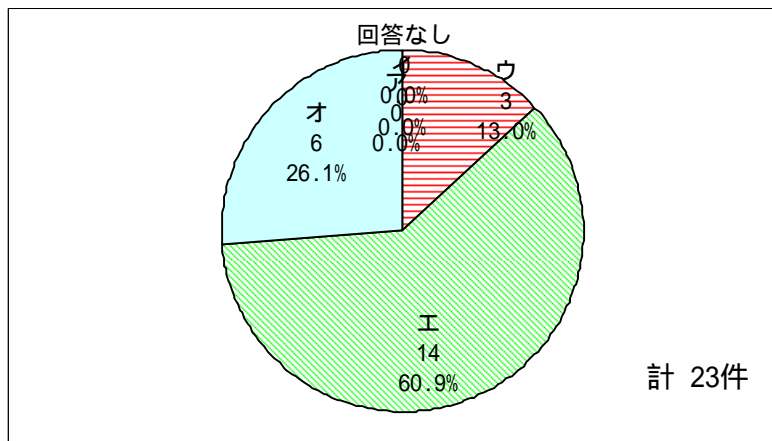
今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...23枚

今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方...7名

Q1 本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。

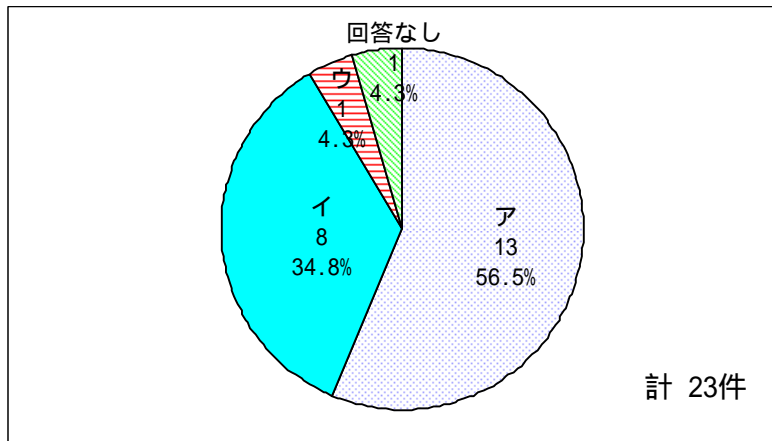
- ア 県のたより・県民の窓 イ 公共機関での配布物 ウ 県のホームページ
エ 所属する団体を通じて オ その他



オ その他の主な内容
・友人の紹介。

Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。

- ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要

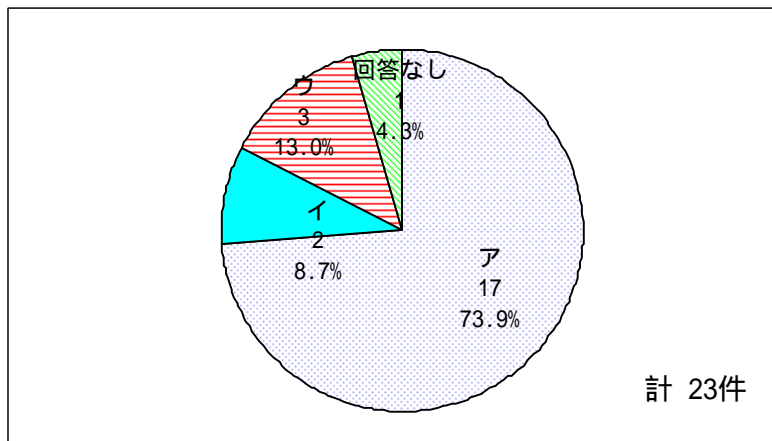


主な理由

- ア
・初めて参加したが、全様が（概要として）理解できた。
・酒匂川について勉強になった。
- イ
・1つ位は、1つのテーマに絞って、パネリストが議論するようなものがあった方がいいと思います。
- ウ
・税が新設されて何がか変わったのか、どこが問題だったのか、数字で示してほしい。

Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。

- ア わいた イ わかなかった ウ その他

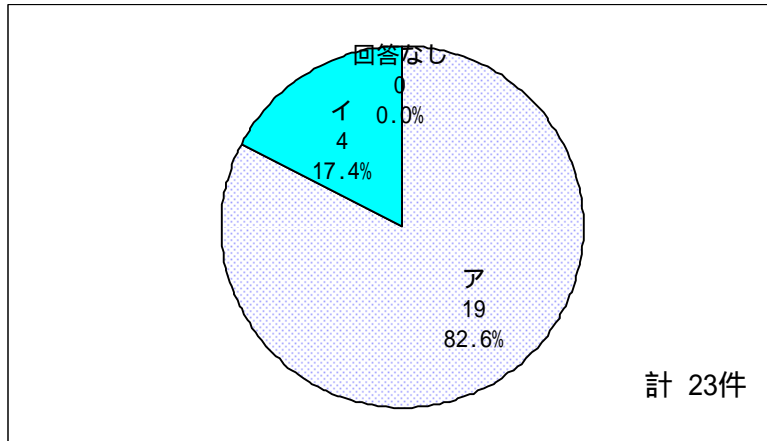


ウ その他の主な内容

- ・実際に山で働いている者として、もっと労働者に近い話が聞きたかった。
・元々、関心がある。個人としても団体としても。
・課題は理解できた。

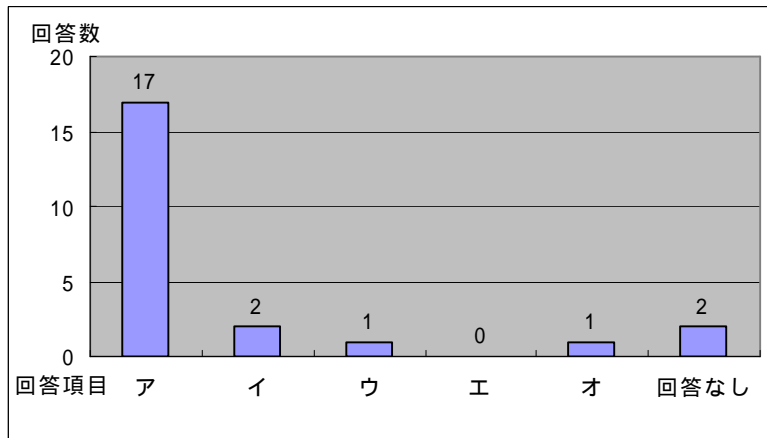
Q 4 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

ア 知っていた イ 知らなかった



Q 5 水源環境保全・再生施策は今後どうしていきべきだと思いますか。

ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき
エ 廃止すべき オ その他



オ その他の主な内容

・よくわからないが「エ」に近い。行政が主体的でなくても民間レベルで結構やれるのではないか。

第10回 (山梨県フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

桂川の水が神奈川県民の飲み水であることをご存知ですか？
～桂川・相模川流域の環境保全に向けて、今、何が求められているかを考える～

日 時：平成22年9月4日(土) 13:30～15:30

場 所：大月市民会館 3階 講堂

～ プログラム ～

13:00 開 場

13:30 開 会

主催者あいさつ

水源環境保全・再生かながわ県民会議副座長 新堀 豊彦

13:35 山梨県の森林や生活排水への取組について

山梨県 森林環境総務課 企画担当 課長補佐 刑部 永保

13:45 神奈川県の水源環境保全・再生施策と両県共同調査について

神奈川県 水源環境保全課長 河原 知徳

14:00 相模湖・津久井湖の現状報告について

神奈川県 流域海岸企画課 河川なぎさグループリーダー 藤崎 伸二郎

14:10 山梨県事業関係者の活動報告について

山梨県 北都留森林組合 参事 中田 無双

14:25 パネルディスカッション

「県民参加による県境を越えた流域環境保全」

各パネリストから活動報告を行ったのち、これからの水源環境への取組について、会場の皆様からの御意見・御質問を基に議論を行います。

コーディネーター

木平 勇吉(東京農工大学名誉教授、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)

パネリスト

河西 悦子(桂川・相模川流域協議会代表幹事)

中村 文明(多摩川源流研究所所長)

田所 正晴(神奈川県環境科学センター専門研究員)

15:30 閉会

本日の配付資料

プログラム(本紙)、質問用紙(2枚)、アンケート用紙、『かながわの水源環境の保全・再生をめざして』、『水源環境保全・再生施策 平成19～21年度事業実績』、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『かながわの水がめ』、『甲斐東部木材団地』チラシ、木平勇吉先生新刊「みどりの市民参加 森と社会の未来をひらく」チラシ



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

東京農工大学名誉教授 ^{このひら} **木平** ^{ゆうきち} **勇吉**

森林科学を信州大学、東京農工大学、日本大学で教える。その間、ニュージーランド森林研究所研究員、ワシントン大学・メルボルン大学訪問教授、国内では日本林学会会長、農林水産省の林政審議会会長を務める。

著書に『森林科学』（文永堂出版、2007）、『みどりの市民参加』（日本林業調査会、2010）など。日本農学賞、日本林学会賞、林業技術奨励賞を受賞。農学博士（名古屋大学）。

現在は、丹沢大山自然再生委員会委員長、神奈川県森林審議会会長、藤沢市みどり保全審議会会長、藤沢市川名谷戸保護団体代表、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員など地域で活動。

パネリスト

桂川・相模川流域協議会代表幹事 ^{かわにし} **河西** ^{えつこ} **悦子**

山梨県大月市在住。市民活動として地元の水問題に取り組む中で、自治体の壁を越えた連携の必要性を強く感じ、桂川・相模川流域協議会の準備段階から関わる。1998年設立時より代表幹事の一人として担う。流域上流部の課題として森林の荒廃（特に民有林）の問題があるが、2002年、神奈川の市民・地元メンバー・地元の学生達と「大月森づくり会」を立ち上げ、水源林の整備・保全・活性化をめざし、実践的な活動にも取り組んでいる。

多摩川源流研究所所長 ^{なかむら} **中村** ^{ぶんめい} **文明**

東京農業大学非常勤講師、NPO法人全国源流ネットワーク代表、多摩川流域ネットワーク代表を務める。

1983年から多摩川源流に通い始め、1994年から多摩川源流の淵や滝、尾根や沢などの名称と由来の調査を開始する。

源流体験ツアーや源流写真展の開催のほか、多摩川源流絵図（塩山・丹波版、小菅版、奥多摩版）の作成など、源流とのふれあいに尽力している。

また、森林管理の基盤整備である森林作業道の開設・普及のため、政府への政策提言や研究会の開催など、積極的な活動を行なっている。

神奈川県環境科学センター専門研究員 ^{たどころ} **田所** ^{まさはる} **正晴**

神奈川県職員（1974年入庁）。同年衛生研究所に配属。1991年より環境科学センターに所属。現在、調査研究部専門研究員。生活排水の処理技術など環境工学分野が専門。最近では、「相模湖・津久井湖の水質汚濁の実態解明」など負荷量調査の研究業務に従事。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県 環境農政局 水・緑部 水源環境保全課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4352 F A X：045(210)8849

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/0517/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 22 年 9 月 4 日に開催した「第 10 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（山梨県フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 10 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（山梨県フォーラム）	
	企画運営委員	井上伸康 倉橋満知子 高橋幸一
開催日時	平成 22 年 9 月 4 日（土） 13:30～16:00	
開催場所	大月市民会館 3 階講堂	
出席者	井伊秀博、井上伸康、加山俊夫（代理出席）、北村多津一、木下奈穂、久保重明、倉橋満知子（1）、木平勇吉（2）、小林信雄、高橋二三代、増田清美、柳川三郎 1 主催者あいさつ 2 コーディネーター	
参加者	142 名	
報告者	倉橋満知子	
内 容	<p>1．主催者あいさつ 倉橋委員 神奈川県では水源環境保全税を財源として、水源の森林づくり事業など 12 の特別対策事業を行っている。第 2 期実行 5 年計画の策定にあたり、相模川の上流域対策についてもその位置づけが考えられている。 相模川は神奈川県民の 6 割の水がめであり、相模川の 8 割の水が山梨県の桂川・道志川から供給されている。神奈川県民 900 万人の約半数の飲み水が、山梨県桂川流域に住む 20 万人の方に支えられていることになり、上下流の連携が必要と考える。</p> <p>2．山梨県の森林や生活排水への取組について 山梨県 森林環境総務課 刑部課長補佐 が説明を行った。</p> <p>3．神奈川県の水源地環境保全・再生施策と両県共同調査について 神奈川県 河原水源環境保全課長 が説明を行った。</p> <p>4．相模湖・津久井湖の現状報告について 神奈川県 流域海岸企画課 藤崎グループリーダー が水質改善に係る取組について報告を行った。</p> <p>5．山梨県事業者関係者の活動報告について 山梨県 北都留森林組合 中田参事 が事業者の視点から見た山梨県の森林の状況などについて報告を行った。 国産材が利用されず、日本の木材自給率は 2 割に減少し、林業経営は厳しい状況にある。林業就業者は減少し、過疎化・少子高齢化の問題、野生動物の食害問題などが発生している。 甲斐東部材木材 3 協同組合（原木市場・製材工場・プレカット工場）は桂川・相模川流域唯一の木材生産拠点施設であり、ここを活用した取組を進めたい。 森を中心とした持続可能な流域循環型社会の実現に向けて、上下流の連携が必要であり、行政・市民・事業者のネットワークが重要となる。</p> <p>6．パネルディスカッション「県民参加による県境を越えた流域環境保全」 コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木平 勇 吉 パネ リ ス ト 桂川・相模川流域協議会代表幹事 河 西 悦 子 " 多摩川源流研究所所長 中 村 文 明 " 神奈川県環境科学センター専門研究員 田 所 正 晴</p> <p>各パネリストからの活動報告に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p>	



倉橋委員



北都留森林組合中田参事

第10回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

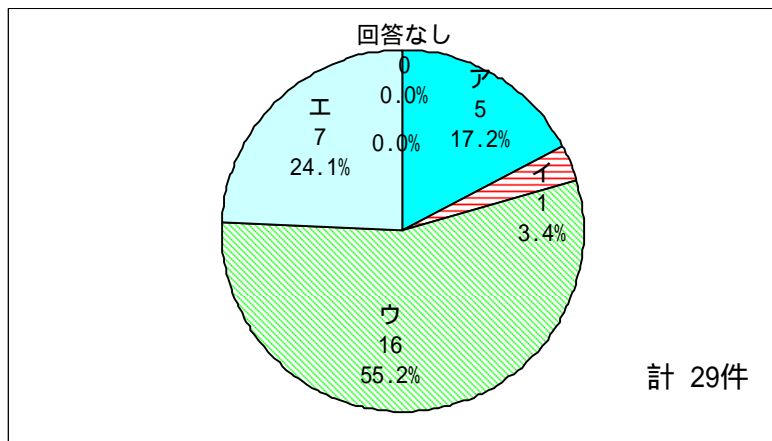
今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...29枚

今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方... 4名

Q1 本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。

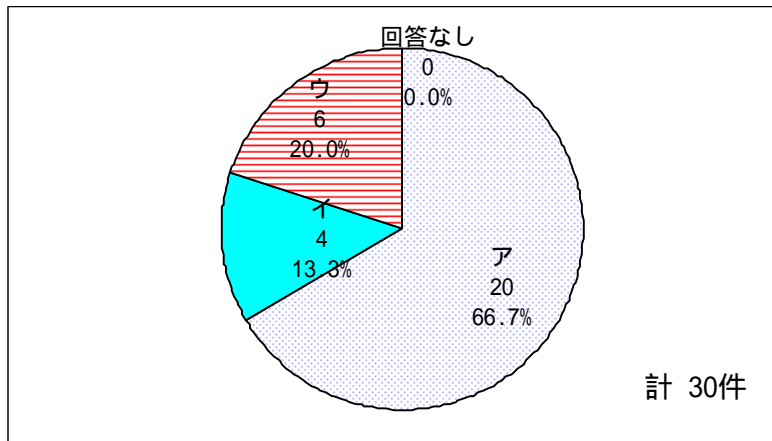
- ア 公共機関での配布物 イ 神奈川県ホームページ
ウ 所属する団体を通じて エ その他



エ その他の主な内容
・会社の社長に教えてもらいました。
・パネリストから。

Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。（一部複数回答あり）

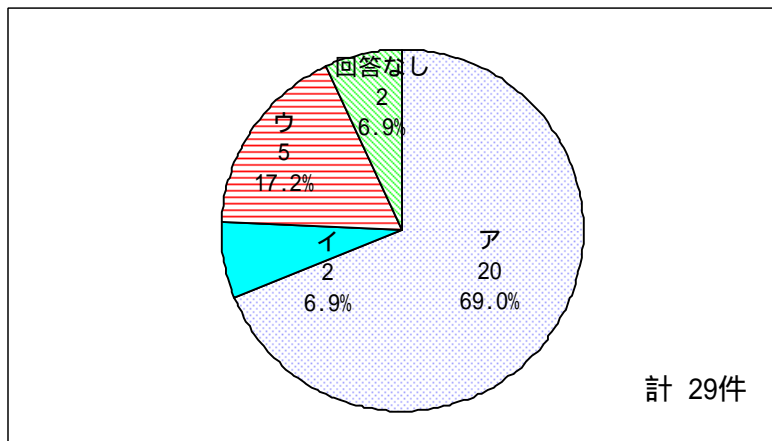
- ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要



主な理由
ア
・初めて山梨県側でかながわ県民のフォーラムが開催された点。
・県をまたいで実施する意義は大きい。
・水源環境の問題が森林だけでなく、排水処理、水質など多岐にわたることを知った。
イ
・山梨県内でもこれからも開催して、普及していく必要がある。
ウ
・時間配分は改善が必要。

Q3 今回のフォーラムを通じて神奈川県の水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。

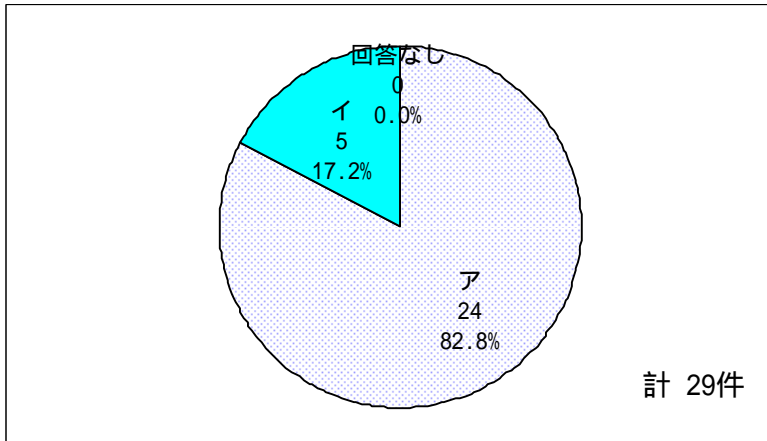
- ア わいた イ わかなかった ウ その他



ウ その他の主な内容
・どこに重点を置いているのがよくわからない。
・興味はわいたが、もっと山梨県側の住民への普及と一体となった取組みの必要性を感じた。

Q 4 神奈川県「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

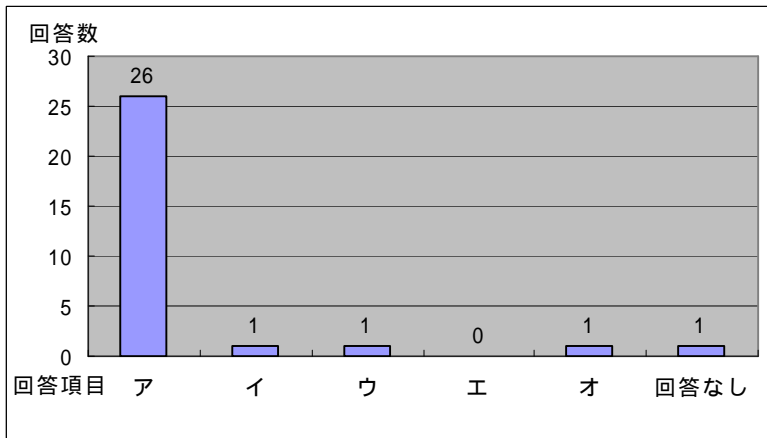
ア 知っていた イ 知らなかった



Q 5 神奈川県「水源環境保全・再生施策」は今後どうしていきべきだと思いますか。

(一部複数回答あり)

ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき
エ 廃止すべき オ その他



オ その他の主な内容

・徴収の取組み等は再検討すべき。

第11回 (川崎・横浜地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

私たちの水はどこから来ているのか

日 時：平成22年10月24日(日) 第1部 13:30～15:30

第2部 15:30～16:00

場 所：川崎市総合自治会館 ホール

～ 第1部 プログラム ～

13:00 開 場

13:30 開 会

主催者あいさつ

水源環境保全・再生かながわ県民会議委員 天野 望

13:35 神奈川県の水源環境保全・再生施策について

神奈川県 水源環境保全課長 河原 知徳

13:55 パネルディスカッション

各パネリストから活動報告を行ったのち、これからの水源環境への取組について、会場の皆様からの御意見・御質問を基に議論を行います。

コーディネーター

田中 充(法政大学社会学部・同大学院政策科学研究科教授、
水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)

パネリスト

島田 勝一(コ・ユラセトル ジャパン株式会社 常務執行役員 広報・CSR推進部長)

島岡 功(かながわ森林インストラクターの会 理事長)

原田 智也(日本ミクニヤ株式会社東京支店環境防災部 課長)

15:30 第1部終了



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

～ 第2部 プログラム ～

15:30 「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の骨子案について

神奈川県 水源環境保全課 税制企画課 森林再生課

自然環境保全センター 環境科学センター

16:00 閉 会

本日の配付資料

プログラム(本紙)、パネルディスカッション質問用紙(2枚)、第2期5か年計画(骨子案)質問用紙(2枚)、アンケート用紙、『かながわの水源地環境の保全・再生をめざして』、『水源環境保全・再生施策 平成19～21年度事業実績』、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画(骨子案)』、『第2期5か年計画(骨子案)の概要』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『かながわの水がめ』、『コ・ユラセトル ジャングル CSRレポート2010』

主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

法政大学社会学部・同大学院政策科学研究科教授 たなか みつる **田中 充**

専門は、環境政策論、環境マネジメント、自治体環境政策など。

主な著書に『自治体環境行政の最前線』（ぎょうせい、2008）、『環境自治体づくりの戦略』（ぎょうせい、2003）、『戦略的環境アセスメントのすべて』（ぎょうせい、2009）等多数。

現在、水源環境保全・再生かながわ県民会議・施策調査専門委員会（委員長）、神奈川県生活環境保全等対策検討委員会（委員長）のほか、中央環境審議会総合政策部会、足立区環境審議会（会長）、練馬区環境審議会（副会長）、相模原市温暖化対策地域協議会（会長）など、国と地方自治体の審議会・委員会で活動中。

パネリスト

カカコラ セントラル ジャパン株式会社 常務執行役員 広報・CSR推進部長 しまだ かついち **島田 勝一**

1972年富士コカ・コーラボトリング（現コカ・コーラ セントラル ジャパン）入社。営業、本社営業企画部門を経て、2001年から現職。世界200カ国以上で展開されているコカ・コーラシステムでは中長期ビジョンのもと、CSR活動を積極的に推進。2006年より、青少年とご家族を対象とした『自然体験学習イベント「森に学ぼう」プロジェクト』を立ち上げ、森を守ることの大切さを学ぶ場を提供するとともに、第61回全国植樹祭に協賛。

かながわ森林インストラクターの会理事長 しまおか いさお **島岡 功**

1993年から神奈川県森林インストラクターとして、水源の森林保全・再生事業の森林ボランティア指導、森林に関する普及啓発活動に取り組む。2008年に法人化したNPO法人かながわ森林インストラクターの会初代理事を務め、自主的で積極的な活動を推進している。地域活動では、2001年より川崎市特別緑地保全地区の小沢城址里山の会副会長を務め、緑地保全活動、環境学習支援活動など実践活動に取り組んでいる。

現在、神奈川県地球温暖化防止活動推進員、川崎市環境審議会委員。

日本ミクニヤ株式会社東京支店環境防災部課長 はらだ ともや **原田 智也**

日本ミクニヤ株式会社東京支店環境防災部に勤務。建設・環境コンサルタントの技術者として主に森林に係わる調査・検討・計画を対応。全国に渡るフィールド（現場）で「視る・観る・見る・診る」を実践中。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県 環境農政局 水・緑部 水源環境保全課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4352 F A X：045(210)8849

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/0517/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

<p>内 容 (続 き)</p>	<p>活動事例・意見発表 (島田氏) 企業の社会的責任として「環境」に対する取組は不可欠である。清涼飲料水メーカーにとって一番大切な原材料は水である。水の使用量削減をはじめ、企業活動で与える環境負荷を軽減させる取組を行っている。 我々の水はどこから来ているかを正しく認識し、保全と改善のために何ができるのかを考え、地域の皆さんと取り組んでいる。また、自然体験学習『「森に学ぼう」プロジェクト』では、宮ヶ瀬湖において次世代を担う子どもたちに水源地域の大切さを学んでもらうと共に、下草刈りなどを体験してもらっている。</p> <p>(島岡氏) 森林インストラクターの役割には、森林保全作業指導(植栽、下刈、枝打ち、間伐)、森林探訪案内(自然観察)普及啓発活動(環境学習、街頭キャンペーン)などがある。かながわ森林インストラクターの会は、水源の森林エリアにある「やどりき水源林」「21世紀の森」を主な活動拠点として、県民参加の森林づくり、学校の環境学習、やどりき水源林の集い、水源林パートナーの支援などを行っている。 川崎市では全域に特別緑地保全地区が指定されており、保全団体が活動している。保全団体のひとつである小沢城址里山の会では川崎市緑の基本計画に基づき、植樹活動、竹林整理、環境教育支援、史跡案内などを行っている。</p> <p>(原田氏) 環境や防災に関わる調査・コンサルティング会社として、森林に関する調査などを行っている。地表面に植物がなく表面が侵食された森林、土砂の流出が著しい溪流など、森林や溪流が荒廃している状況である。これら荒廃した森林や溪流に対して、面(森林整備)と点(えん堤等)の対策が必要である。森林を良好な状態に導く計画の作成や対策を取るための調査などを通じて、水源環境保全・再生に貢献していきたい。</p> <p>パネルディスカッション 【水源環境保全・再生施策に期待すること】 (島田氏) 企業が市民・NPO・行政と一緒に活動を行っていくにあたり、行政にコーディネーションをお願いしたい。</p> <p>(島岡氏) 森林整備は30～50年先でないとも結果が出てこない。早急に結果が出るような事業への予算配分も検討してほしい。 間伐材の利用にあたり、流通システム等の整備が必要である。 人工林調査でC・Dランクをつけられた森林に対する事業の進捗状況について、県民にわかりやすく情報提供してほしい。</p> <p>(原田氏) 県では、企業・団体向けに水源林パートナー制度などの支援を行っているが、若者に参加してもらえるような取組が必要である。より多くの人に森林の現状を知ってもらい、興味を持って活動に参加してもらえるようにしていかなければならない。</p> <p style="text-align: center;">【 第 2 部 】</p> <p>「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の骨子案の説明と意見交換を行った。</p>
------------------------	---



パネリスト(左から島田氏、島岡氏、原田氏)

第11回県民フォーラム企画運営委員の感想

井伊秀博	御挨拶を引き受けて下さった天野委員、そしてコーディネーターを引き受けて下さった田中委員に感謝申し上げます。それから積極的に発言いただいた委員の方々にもお礼申し上げます。県民フォーラムは、県民会議が主催しリードするものだという基本スタンスを改めて意識させられました。
北村多津一	川崎地区での開催は初めての試みでもあり、チームの皆さんや出演者、県関係者が協力し取り組んだことはとてもよかったと思います。参加者数が予想より少なかったことは、開催場所(わかりずらかった)や地域特性(東京志向)が影響していると感じました。このようなフォーラムの開催では、やはり事前準備にある程度時間が必要なことや横のネットワークの大切さを改めて実感しました。
木下奈穂	川崎で活動をする3つの立場のパネリストの話が聞けて有意義なフォーラムだったと思います。参加者人数が前回より少なく、人集めが今後の課題と感じました。今回のチラシの配布は3週間前からでした。次回はチラシの配布開始時期をもう少し早めたいです。
久保重明	次期5か年骨子案がでた最初の県民フォーラムであり、多くの参加を期待していました。川崎での人集めは難しいという予想があり、その通りの結果でした。しかし今回、参加者が意見や質問を直接述べ、パネリストや県が答える形となり、相互の理解を深めるにはよい試みだったと思っております。

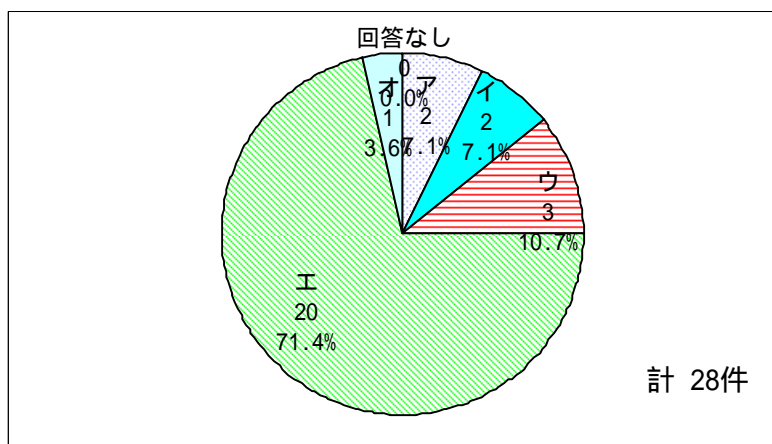
第11回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...26枚

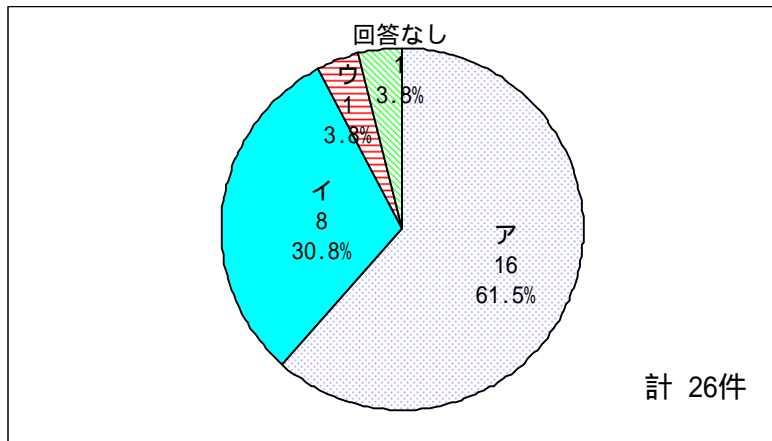
今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方...6名

Q1 本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。(一部複数回答あり)
ア 県のたより イ 公共機関での配布物 ウ 県のホームページ
エ 所属する団体を通じて オ その他



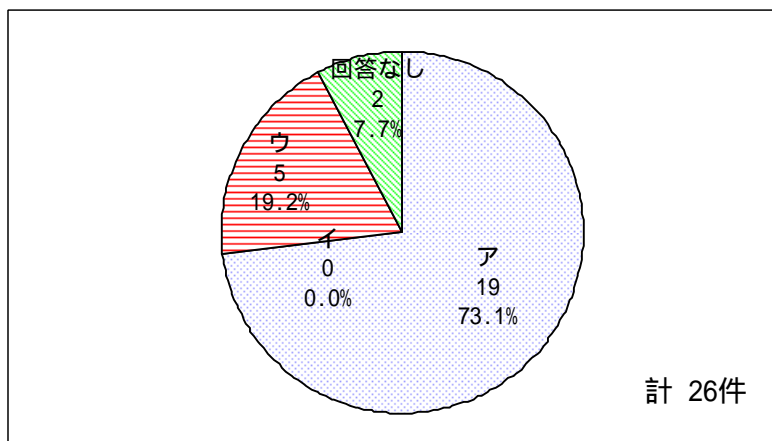
オ その他の主な内容
・フォーラム委員から。

Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。
ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要



主な理由
ア
・地球環境全体の中の一つとしての仕組みの理解。
・それぞれの立場で活動している人たちの事例を聞くことができた。
・問題点が良く分かった。
・異なる視点からの発言でよかった。
イ
・副題の内容を満足するフォーラムとしては不十分であった。
ウ
・参加者が少数で特定。

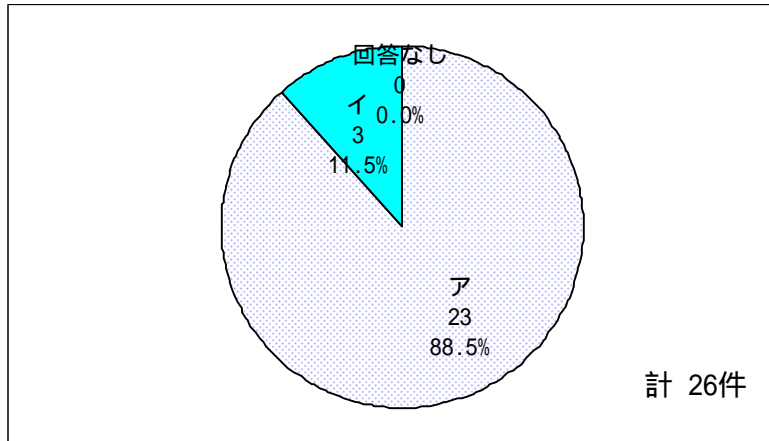
Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。
ア わいた イ わかなかった ウ その他



ウ その他の主な内容
・元々興味・関心はある。
・以前から活動。

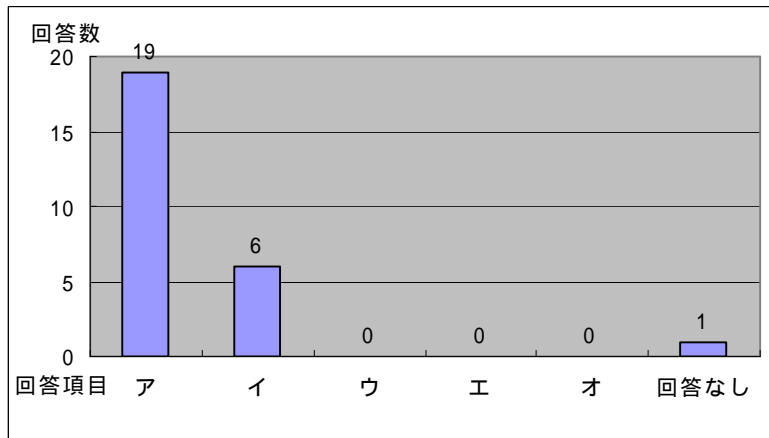
Q 4 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

ア 知っていた イ 知らなかった



Q 5 水源環境保全・再生施策は今後どうしていきべきだと思いますか。

ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき
エ 廃止すべき オ その他



第12回 (湘南・県央地域フォーラム)

水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム

森林とシカの一体管理

日 時：平成23年2月6日(日) 第1部13:30~15:45(開場13:00)

第2部15:50~16:30

場 所：FORUM246 4階 大研修室

～ 第1部 プログラム ～

- 13:30 開 会
主催者あいさつ
水源環境保全・再生かながわ県民会議座長 堀場 勇夫
- 13:40 神奈川県の水源環境保全・再生施策について
神奈川県 水源環境保全課長 河原 知徳
- 14:00 基調講演
中村 道也(丹沢自然保護協会理事長、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)
- 14:35 パネルディスカッション
各パネリストから活動報告を行ったのち、これからの水源環境への取組について、会場の皆様からの御意見・御質問を基に議論を行います。
- コーディネーター
木平 勇吉(東京農工大学名誉教授、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)
- パネリスト
山口 寿則(伊勢原森林里山研究会理事長)
平田 光一(伊勢原市森林組合代表理事専務)
中村 道也(丹沢自然保護協会理事長、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員)
- 15:45 第1部終了



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
しずくちゃん

～ 第2部 プログラム ～

- 15:50 「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の素案について
神奈川県 水源環境保全課 税制企画課 自然環境保全課 森林再生課
自然環境保全センター 環境科学センター
- 16:30 閉 会

本日の配付資料

プログラム(本紙)、パネルディスカッション質問用紙(2枚)、第2期5か年計画(素案)質問用紙(2枚)、アンケート用紙、『かながわの水環境の保全・再生をめざして』、『水源環境保全・再生施策 平成19～21年度事業実績』、『かながわ水源環境保全・再生施策大綱』、『かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画』、『第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画(素案)』、『第2期5か年計画(素案)概要』、『神奈川県水源環境保全・再生基金への寄付のお願い』、『かながわの水がめ』、『丹沢大山自然再生委員会パンフレット』

主催 水源環境保全・再生かながわ県民会議

出演者を紹介します。

しずくちゃん



コーディネーター

このひら ゆうきち
木平 勇吉 東京農工大学名誉教授

森林科学を信州大学、東京農工大学、日本大学で教える。その間、ニュージーランド森林研究所研究員、ワシントン大学・メルボルン大学訪問教授、国内では日本林学会会長、農林水産省の林政審議会会長を務める。

著書に『森林科学』（文永堂出版、2007）、『みどりの市民参加』（日本林業調査会、2010）など。日本農学賞、日本林学会賞、林業技術奨励賞を受賞。農学博士（名古屋大学）。

現在は、丹沢大山自然再生委員会委員長、神奈川県森林審議会会長、藤沢市みどり保全審議会会長、藤沢市川名谷戸保護団体代表、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員など地域で活動。

パネリスト

やまぐち としのり
山口 寿則 伊勢原森林里山研究会理事長

伊勢原市内の森林・里山の荒廃に心を痛め、「伊勢原森林里山研究会」を設立し活動を始める。2005年にNPO法人認証。2009年、森づくりだけでは森林の健全な環境を構築できないと、地域、行政、研究機関と共に「日向ふるさとづくり協議会」を設立。野生動物との共生ゾーン（緩衝地帯）の構築をきっかけ混交林を目指した森林整備、谷戸田や遊休農地の活用、獣害対策の実験農場などのプロジェクトを展開している。

現在、日向ふるさとづくり協議会事務局長、いせはら環境市民ネットワーク事務局長、伊勢原市市民活動検討委員会委員。職業：有限会社快気堂薬局代表取締役。

ひらた こういち
平田 光一 伊勢原市森林組合代表理事専務

1945年に雨降山として名高い大山の麓に生をうける。

1965年伊勢原市農業協同組合勤務を経て、2001年から伊勢原市森林組合に勤務し、現職は代表理事専務。森林の保続培養及び森林生産力の増進を図る事等を目的とした、森林組合の組織活動を通して水源の森づくり事業を実践中。

現在、神奈川県森林審議会委員、神奈川県林業協会湘南支部副支部長、伊勢原市総合農政審議会委員、(財)伊勢原市みどりのまち振興財団「緑化のすすめ」検討委員会委員。

なかむら みちなり
中村 道也 丹沢自然保護協会理事長（基調講演）

1947年生まれ。生まれも育ちも丹沢産、現在に至る。企業組合「丹沢ホーム」の理事長を務め、丹沢山・札掛で、民営国民宿舎などを経営。自然保護活動をライフワークとし、現在、NPO法人丹沢自然保護協会（1960年設立）の4代目代表。自然環境を保護する様々な活動経緯の中で、行政に提案、意見を行っている。

（提言に基づき事業化された最近の一例）

環境庁・林野庁に、遺伝子を基本とした森林再生、「コリドー」（緑の回廊）の必要性を提唱し事業化される。

神奈川県に、自然環境を対象に展開する行政機関の一元化を要望し、一部実現化される。併せて、自然環境保全のため、受益者負担の原則に基づく「新税」の導入を提案し、丹沢の森林環境保全へ特化する要望を行う。平成19年度より水源環境保全税として事業実施されている。

また、全国に先駆け、遺伝子を基本とした市民参加の植栽活動を実施、継続している。自然環境に関わる様々な活動で、行政との協働も積極的に行っている。

現在、自然環境保全審議会委員、森林審議会委員、水源環境保全・再生かながわ県民会議委員。

（敬称略）

【問い合わせ先】

事務局（神奈川県 環境農政局 水・緑部 水源環境保全課）

〒231-8588 横浜市中区日本大通1 電話：045(210)4352 F A X：045(210)8849

関連ホームページ「かながわの水源環境の保全・再生をめざして」



<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/05/0517/suigenkankyo/index.html>

かながわ水源環境保全

検索

水源環境保全・再生かながわ県民会議 活動結果報告

平成 23 年 2 月 6 日に開催した「第 12 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）」の内容は次のとおりでした。

名 称	第 12 回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム（湘南・県央地域フォーラム）	
テ ー マ	森林とシカの一体管理（野生動物との共存）	
企画運営委員	岩淵聖 小林信雄 柳川三郎	
開催日時	平成 23 年 2 月 6 日（日） 第 1 部 13:30～15:50 第 2 部 16:00～16:55	
開催場所	（伊勢原市）FORUM 246 4 階 大研修室	
出席者	堀場勇夫（ 1 ）、岩淵聖、片山幸男、加山俊夫（代理出席）、木下奈穂、倉橋満知子、木平勇吉（ 2 ）、小林信雄、齋藤光弘、高橋弘二、高橋二三代、中村道也（ 3 ）、柳川三郎 1 主催者あいさつ 2 コーディネーター 3 パネリスト	
参加者	122名	
報告者	小林信雄	
内 容	<p style="text-align: center;">【 第 1 部 】</p> <p>1．主催者あいさつ 堀場座長 シカの管理と連携した森林の育成・整備は、県民会議としても非常に重要な課題であるという認識のもと、施策を進める上で皆さまのご意見を賜ることが非常に大切であると考えている。水源環境の保全・再生の取組も、第 1 期 5 か年計画の 4 年目を終えようとしており、現在、第 2 期 5 か年計画の策定に向けて検討が行われているので、皆さまからご意見を賜りたい。</p> <p style="text-align: right;"> 堀場座長</p> <p>2．県の水源環境保全・再生施策について 河原水源環境保全課長が説明を行った。</p> <p>3．基調講演 丹沢自然保護協会 中村道也 理事長 「人工林の管理にシカはいらない、猪もいない、人もいない」というのが所有者の思いだろう。しかし、こうした環境を作り出してしまった一番の原因は私たち人間の生活である、という基本に戻って野生動物のことを考えていく必要がある。山の中に住む私が子供の頃、シカやタヌキ、キツネなどの野生動物を見る機会はほとんどなかった。多くの野生動物は人間の生活圏と自然環境の境界線上で生きている。しかし、人口増加と共に、野生動物が棲む場所を人間が占有してしまった。最近、「保護管理」という言葉が定着してきた印象を持つが、「保護」という部分が抜け落ちていくように思われる。「保護管理」の基本は「保護」が前提である。動物の数を減らして、被害を減らすことが、あたかも「保護管理」であるような誤解が生じている。森林のことを捉えるときに一番大切なことは、一般に「多様性」と表現される、「豊かさ」をまず基本に考えることである。かつて、行政は、時代に合わせた方針転換や取組をあえて避けていた時があった。93 年から実施された「学術総合調査」の調査結果は丹沢の予想以上の荒廃を指摘するものであったが、行政が一体となった丹沢の保全対策はほとんど実施されなかった。行政の財政事情が悪化している中、森林に対する新税の検討を県に要望した。これは、丹沢の現状を知るための勉強会「丹沢フォーラム」で、エコシステムマネジメント導入をテーマにワークショップを開催したときの出席者からの発言に端を発したものである。水源税の最大の負担者である都市部の住民が求める森林は、野生動物の棲む豊かな森林だろう。しかし、丹沢の森林の半分を人工林が占めていることも現実なので、人工林の整備に税を投入することも仕方ないが、本来県民が要望する森林の管理も無視してはならない。その中で、野生動物の保護管理が重要なテーマとなる。これからは野生動物が棲んでいることを前提とした森林の管理を考えなければ、保護管理の本来の目的を達することは難しい。</p> <p style="text-align: right;"> 中村理事長</p> <p>4．パネルディスカッション コーディネーター 東京農工大学名誉教授 木 平 勇 吉 パネ リ ス ト 伊勢原森林里山研究会理事長 山 口 寿 則 " 伊勢原市森林組合代表理事専務 平 田 光 一 " 丹沢自然保護協会理事長 中 村 道 也</p> <p>各パネリストからの活動報告に引き続き、会場からの質問・意見等を踏まえ、パネルディスカッションを行った。</p>	

<p>内 容 (続 き)</p>	<p>パネルディスカッションの趣旨について (木平委員) 「森林は歴史の所産である」という表現がある。私たち人間が行ってきたことの積み重ねが現在の森林になっている。そして、これから私たちがすることが将来の森林になる。県民の立場から、いろいろな考えを自由に発言し、自己主張してもらいたい。</p> <p>活動事例・意見発表 (山口氏) 伊勢原森林里山研究会は、当初、里山地域を中心とした活動を行っていたが、2001年の森林・林業基本法の制定などを契機として、人工林での活動も行っている。 丹沢大山総合調査を契機に日本大学と連携する機会を持ち、建築地域共生デザイン研究室に日向地域再生の専門機関として参加している。また、森林管理・住宅研究室では、石雲寺の森混交林施業に伴う植生調査と経年変化の調査を行っている。さらに、畜産経営研究室・草地学研究室では林床植生による野生動物(シカ)の牧養力測定を行っている。 農山漁村(ふるさと)地域力発掘支援モデル事業として、日向ふるさとづくり協議会を発足し、獣害対策実験農場など行政と連携した取組も行っている。また、伊勢原市の谷戸田オーナー制度推進管理者としての活動や、旭硝子株のCSR活動なども行っている。 活動を通して、持続的活動を担保する制度、多様な主体との連携、地域再生の必要性、材を搬出する場合の下流の担保、などの課題が見えてきた。</p> <p>(平田氏) 林業が成り立たない現状では水源税は非常に有難い制度である。シカの食害や角磨の被害を受け、森林の成長を妨げている実態がある。また、地肌が荒れ、土砂崩れが起きている現場も随所にある。森林の再生を念頭に置き、かながわ森林再生50年構想に基づき、標高等に応じた動物や人間との関わりを早期に整備していく必要がある。 北海道の知床半島を訪れた際、林業関係者との話を通して、天敵により野生動物等の生態系バランスを保つことも、ある意味、共生を保つ1つのあり方であると感じた。</p> <p>パネルディスカッション 【荒廃している森林で問題となっていること、及びその解決策とは。また、シカが生きていける森林の環境に必要なものとは。】 (山口氏) 林床植生の不足、生物多様性が担保できていない状況などが見受けられる。自伐林家など、森林に経済としてのシステムを再構築していくことで森林整備が進んでいくと考える。 シカに限らず生物にとって、まず、食糧があるという環境が大切である。また、人間の生活圏と森林との間に緩衝部分を設け、お互い直接衝突しないようにすることが必要である。 (平田氏) 林業が林業として成り立つ仕組みが十分でない。水源税により林業が成り立たない部分を手助けしていただいているが、林業者からも情報を発信し、納税者に議論してもらうのが大切である。天然林の再生・植生の回復が、シカの住環境の整備にとって重要である。 (中村氏) 人工林については、木材利用の変化に伴う森林の手入れ不足や放置林の問題がある。自然林に関しては、複合汚染や野生動物による食圧の問題がある。神奈川県民の中でも森林に関心を持っている方はわずかだと思ふ。水源税を通して行政に関心を持ってもらうことが大切である。公有林を整備し、野生動物を抱え込んでいくということを考えていく必要がある。そのためには人工林管理のあり方・手法を煮詰めていかなければならない。</p> <p style="text-align: center;">【 第 2 部 】</p> <p>「第2期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」の素案の説明と意見交換を行った。</p>	 <p style="text-align: center;">コーディネーター (木平委員)</p>  <p style="text-align: center;">パネリスト(左から山口氏、 平田氏、中村氏)</p>
------------------------	---	---

<p>第12回県民フォーラム企画運営委員の感想</p>	
<p>岩 淵 聖</p>	<p>中村委員による丹沢の自然の変遷については、体験を交えた貴重なお話を伺うことができ良かったと思います。「豊かな森」とは野生動物が棲息する森であるというのは、全く同感です。一方、テーマからするとシカの研究者の参加と提言があれば、なお良かったように思います。</p>
<p>小林信雄</p>	<p>県央地域でのフォーラムであることから、テーマを「森林とシカの一体管理」としました。基調講演にて「野生動物が生息する豊かな森林」を強調していただいたこと大変有意義でした。県民の出席者数を増やすことが重要ですので、今後は「県のたより」や「地域広報紙」などにも開催をPRすることが望まれます。</p>
<p>柳川三郎</p>	<p>FORUM 246の会場は基調講演等主たる主宰者と参加者の距離感が近く親近感が漂う雰囲気は上々の様相であった、テーマ「森林とシカの一体管理」の流れが終始に亘って展開されて、森林が荒れている状況を豊かな森林にしようとする情熱ある取組とシカの管理について共存の必要性を含めて一定の理解ができて意義のあるフォーラムが開催できました。</p>

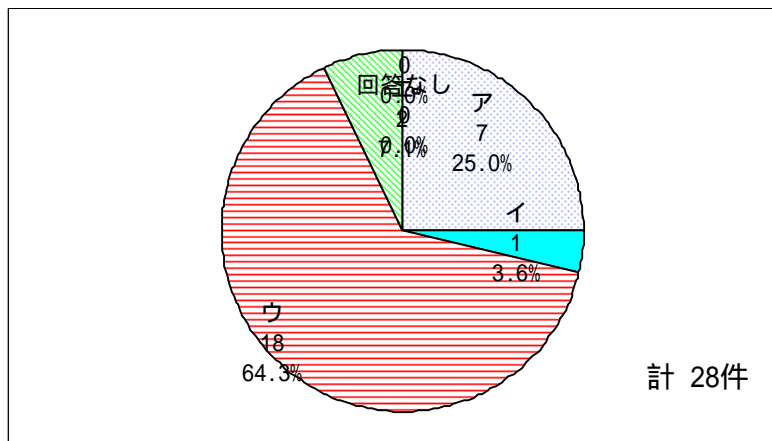
第12回水源環境保全・再生かながわ県民フォーラム
アンケート集計結果

今後の取組の参考とするため、フォーラムに参加いただいた方々にアンケート調査を実施したところ、多数のご回答をいただきました。集計結果は次のとおりです。

回収したアンケート...27枚

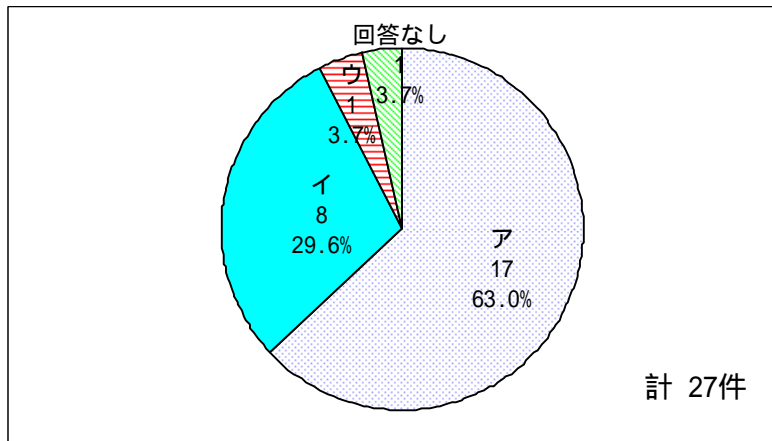
今後、水源環境保全・再生に関する情報提供を希望する方...3名

Q1 本日のフォーラムのことをどのようにして知りましたか。(一部複数回答あり)
ア 公共機関での配布物 イ 県のホームページ ウ 所属する団体を通じて
エ その他



エ その他の主な内容
・市環境保全課

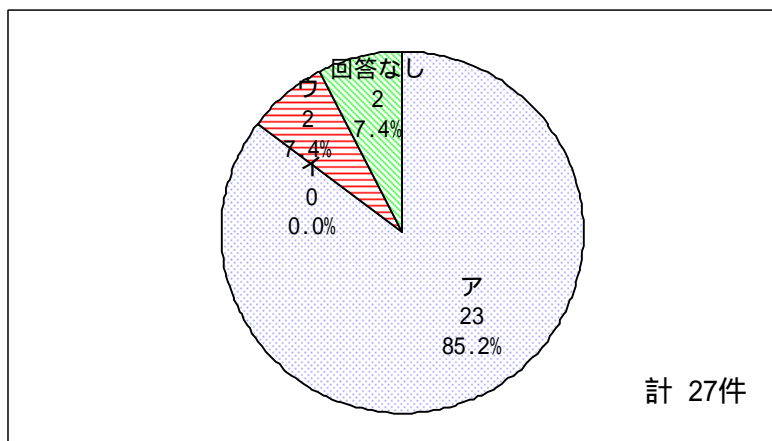
Q2 今回のフォーラムはいかがでしたか。
ア 良かった イ 普通 ウ 改善が必要



主な理由

- ア
- ・内容がわかりやすかった。
 - ・現地に長く住んでいる人、そこで活動する人の声はたいへん貴重。理屈、理論との整合をどうはかるかが大事。
 - ・パネルディスカッションの中身が濃く、広い考えを得られた。
- ウ
- ・テーマと内容が合っていない。シカについての専門的な話が聞けると思った。一体管理が必要な理由の説明が必要。

Q3 今回のフォーラムを通じて水源環境を守る取組に興味・関心がわきましたか。
ア わいた イ わかなかった ウ その他

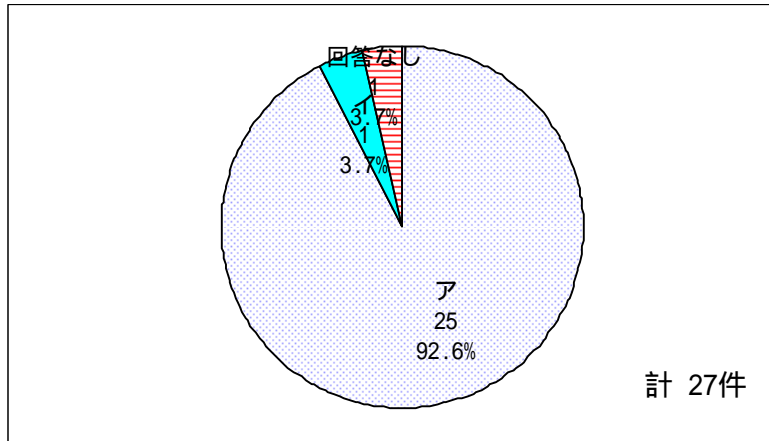


ウ その他の主な内容

- ・現在水源環境保全活動に参加している。
- ・ボランティア活動中。

Q 4 「水源環境保全税」を以前から知っていましたか。

ア 知っていた イ 知らなかった



Q 5 水源環境保全・再生施策は今後どうしていきべきだと思いますか。

ア さらに拡充すべき イ 現状維持 ウ 縮小すべき
エ 廃止すべき オ その他

